

(品目別需給編)

# 1 小麦

## (1) 国際的な小麦需給の概要 (詳細は右表を参照)

<米国農務省 (USDA) の見通し> 2024/25 年度

**生産量** 前年度比 前月比 **-**

- ロシア、英国等で減少したものの、インド、中国等で増加し、前年度から増加した。史上最高の見込み。

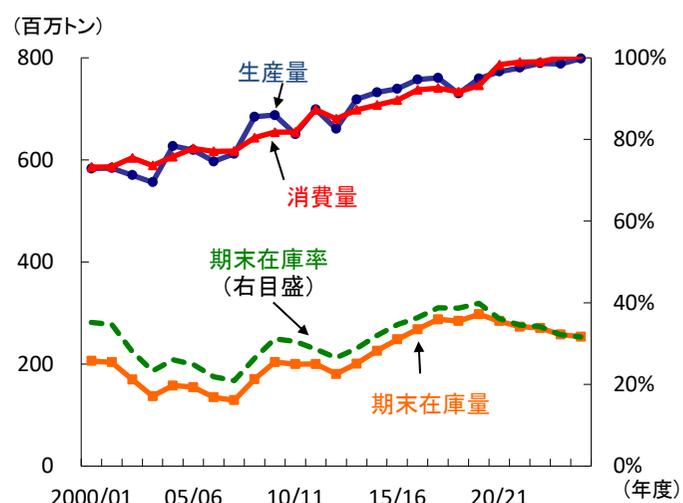
**消費量** 前年度比 前月比 **-**

- 中国、ロシア等で減少したものの、アフガニスタン、パキスタン等で増加し、前年度から増加した。史上最高の見込み。

**輸出量** 前年度比 前月比 **-**

- ウクライナ等で減少したものの、アルゼンチン、豪州、米国等で増加し、前年度から増加した。

**期末在庫量** 前年度比 前月比 **-**



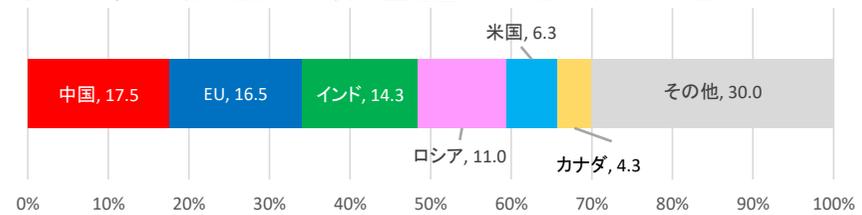
## ◎世界の小麦需給

(単位: 百万トン)

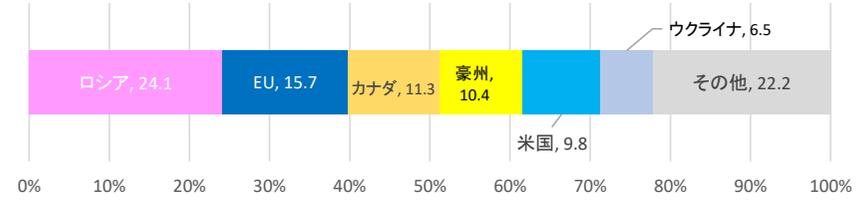
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	789.2	787.7	798.2	—	1.3
消費量	791.9	800.3	802.4	—	0.3
うち飼料用	154.9	160.1	151.8	—	▲ 5.2
輸出量	220.7	215.7	216.0	—	0.2
輸入量	212.1	213.7	209.4	—	▲ 2.0
期末在庫量	270.4	257.8	253.6	—	▲ 1.6
期末在庫率	34.1%	32.2%	31.6%	—	▲ 0.6

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (10 May 2024)

○ 2024/25年度の世界の小麦の生産量(798.2百万トン) (単位: %)



○ 2024/25年度の世界の小麦の輸出量(216.0百万トン) (単位: %)



○ 2024/25年度の世界の小麦の輸入量(209.4百万トン) (単位: %)



## (2) 国別の小麦の需給動向

### < 米国 > 2024/25 年度の生産量は前年度比 2.5%増の 50.6 百万トン

【生育・生産状況】米国農務省(USDA)によれば、2024/25 年度の実績は、前年度から収穫面積及び単収が増加することから 50.6 百万トンと、前年度と比べ 2.5%増、過去 5 年平均(48.2 百万トン)と比べても 4.8%増となる見込み。種類別には、冬小麦が前年度比 2%増の 34.8 百万トン、春小麦及びデュラム小麦が前年度比 3%増の 15.8 百万トンとなる見込み。

「Wheat Outlook」(2024.5.14)によれば、2024/25 年度の品種別生産量は、ハード・レッド・ウインター(HRW)は、収穫面積の増加と前年度の干ばつからの回復による単収の増加を受けて前年度比 17%増の 19.2 百万トンとなる見込み。他方、ソフト・レッド・ウインター(SRW)は、前作物のとうもろこし及び大豆の収穫が遅れ作付面積が減少したこと等を受けて前年度比 23%減の 9.4 百万トンとなる見込み。ホワイト・ウインターは、単収増から前年度比 16%増の 6.2 百万トンとなる見込み。

「Crop Progress」(2024.5.13)によれば、5月12日現在、冬小麦の 57%が出穂しており、作柄は「やや良～良」の割合が 50%と、干ばつの影響があった前年度同期の 29%から 21 ポイント上回っている。また、春小麦の作付進捗率は天候に恵まれたこともあり 61%と、前年度同期の 35%、過去 5 年平均の 48%をいずれも上回っているとともに、出芽進捗率も 25%と、前年度同期の 11%、過去 5 年平均の 18%をいずれも上回っている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、米国における生産量増による輸出余力の増加に加え、ロシア及びウクライナの生産量減による輸出量の減少に伴う米国産の相対的な価格競争力の高まりを受けて 21.1 百万トンと、前年度に比べ 7.6%増加するものの、過去 5 年平均(23.1 百万トン)比では 8.5%減となる見込み。一方で、高品質小麦については、カナダ及び豪州の生産量も増加することから、高品質小麦の市場であるアジア等で両国との競争が激化すると予想されている。また、2023/24 年度の輸出量は、前月予測から 0.3 百万トン上方修正され 19.6 百万トンとなったものの、前年度に比べ 5.1%減少し、1972/73 年度以降で最低の見込み。

2024/25 年度の輸入量は、生産量の増加により国内需給が緩和することから 3.3 百万トンと、前年度に比べ 14.2%減少となる見込み。

2024/25 年度の期末在庫量は、生産量の増加等により 20.9 百万トンと、前年度に比べ 11.4%増加し 4 年ぶりの高水準となる見込み。

## 小麦－米国 (冬小麦が全体の 7 割、春小麦は 3 割)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年6月～25年5月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	44.9	49.3	50.6	—	2.5
消費量	30.4	30.3	30.6	—	0.9
うち飼料用	2.1	2.5	2.7	—	11.0
輸出量	20.7	19.6	21.1	—	7.6
輸入量	3.3	3.8	3.3	—	▲ 14.2
期末在庫量	15.5	18.7	20.9	—	11.4
期末在庫率	30.4%	37.5%	40.3%	—	2.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	14.36	15.08	15.37	—	1.9
単収(t/ha)	3.13	3.27	3.29	—	0.6

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(10 May 2024)

図：米国の小麦の生産量・輸出量等の推移

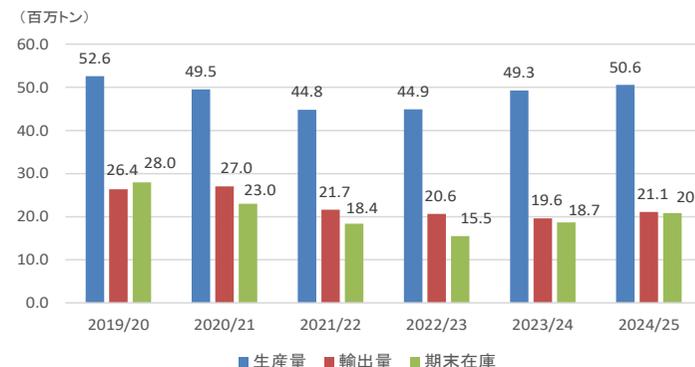


表 米国産小麦の品種別生産量の推移

品種名	2023/24年度	2024/25年度	増減率 (%)
ハード・レッド・ウインター	16.4	19.2	17
ソフト・レッド・ウインター	12.2	9.4	-23
ホワイト・ウインター	5.4	6.2	16
春小麦及びデュラム小麦	15.3	15.8	3
合 計	49.3	50.6	

資料：USDA 「Wheat Outlook」(2024.5.14)をもとに農林水産省で作成

## ＜ カナダ ＞ 2024/25 年度の生産量は前年度比 8.3%増の 34.6 百万トン

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省(AAFC)「Outlook for Principal Field Crops」(2024.5.21)によれば、2024/25 年度の小麦全体の生産量は、前月予測から変更はなく 34.6 百万トンと、干ばつの影響を受け生産量が減少した前年度に比べ 8.3%増、過去 5 年平均と比べても 10.3%増加する見込み。

種類別の生産量は、普通小麦、デュラム小麦ともに前月予測からの変更はなく、それぞれ 28.9 百万トン(前年度比 3.7%増、過去 5 年平均 9.3%増)、5.7 百万トン(同 39.8%増、15.6%増)。デュラム小麦は春小麦に比べ価格が高いことから作付面積が増加し、生産量が増加する見込み。

春小麦の主要産地であるプレーリー平原では、3 月まで乾燥天候であったものの、4 月に平均降雨量を上回る降雨があった。この降雨により表層の土壌水分は改善された一方、深層の土壌水分は不足しているため、生育期の適時な降雨が必要とされている。

カナダ各州政府によれば、サスカチュワン州では、作付けが遅延したものの降雨に恵まれ、表層の土壌水分量が改善した。5 月 13 日現在、普通小麦及びデュラム小麦の作付進捗率はそれぞれ 36%(過去 5 年平均 43%)、38%(同 38%)となった。アルバータ州では平年を超える気温により作付けが早まったものの、5 月 14 日現在、春小麦の作付進捗率は 45%と、前年度同期 70%を大きく下回っている。マニトバ州では、5 月 21 日現在、春小麦の作付進捗率は前週の 58%から 77%に進展し、同州中央部分では早期に作付された小麦の出芽が始まるとともに、最近の降雨により大部分の生産地の土壌水分は良好となっている。冬小麦の主要産地であるオンタリオ州では、大部分の冬小麦の生育状況は良好である。

【貿易情報・その他】AAFCによれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測に比べ 0.2 百万トン上方修正され前年度比 5.5%増の 24.8 百万トンの見込み。種類別には、普通小麦は、世界的な高たんぱく質小麦の需要が堅調なことを受けて前年度に比べわずかに増加し 20.3 百万トンとなるほか、デュラム小麦も生産量の回復により輸出余力が増加するとともに、北アフリカ及び欧州への輸出量の増加を受け前年度比 40.6%増の 4.5 百万トンとなる見込み。

カナダ穀物委員会(CGC)によれば、2024 年 3 月の輸出量は 216.1 万トン。種類別には、普通小麦は 171.1 万トンで、輸出先国は Bangladesh(22.2%)、中国(15.4%)、インドネシア(11.3%)の順。デュラム小麦は 45.0 万トンで、アルジェリア(42.9%)、モロッコ(26.4%)、米国(11.3%)の順。

AAFCによれば、2024/25 年度の期末在庫量は、生産量の増加等を受けて前年度比 27.1%増の 3.8 百万トンの見込み。

## 小麦－カナダ（春小麦を主に栽培）

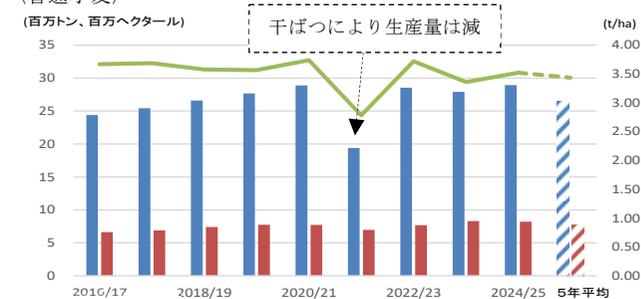
(単位:百万トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年8月～25年7月)		
			予測値、( ) はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	34.3	32.0	34.0 (34.6)	—	6.4
消費量	9.5	9.7	9.3 (9.2)	—	▲ 4.1
うち飼料用	4.3	4.5	4.0 (4.9)	—	▲ 11.1
輸 出 量	25.6	24.0	24.5 (24.8)	—	2.1
輸 入 量	0.6	0.6	0.6 (0.2)	—	▲ 8.3
期末在庫量	3.5	2.4	3.1 (3.8)	—	31.6
期末在庫率	10.0%	7.0%	9.2% (11.0%)	—	2.2

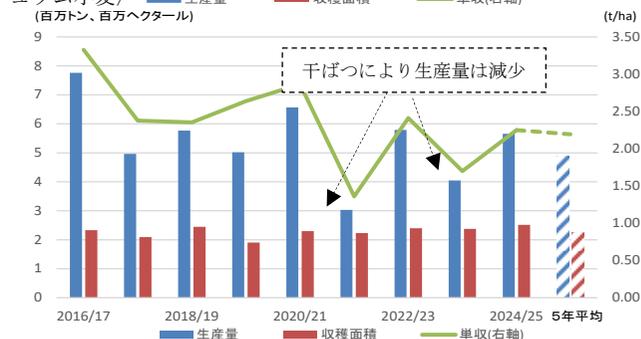
(参考)  
 収穫面積(百万ha) 10.08 10.68 10.70 (10.73) — 0.2  
 単収(t/ha) 3.41 2.99 3.18 (3.23) — 6.4  
 資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
 「World Agricultural Production」(10 May 2024)  
 AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(21 May 2024)

## 図 カナダ産小麦の生産量、収穫面積、単収の推移

(普通小麦)



(デュラム小麦)



資料: AAFC 「Reports and statistics data for Canadian Principal Field Crops」  
 (2024.5.21)のデータをもとに農林水産省で作成

## < 豪州 > 2024/25 年度の生産量は前年度比 11.5%増の 29.0 百万トン

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実績は、降雨不足であった前年度から単収が増加することを受け 29.0 百万トンと、前年度比 11.5%増となる一方、過去 5 年平均(29.8 百万トン)比では 2.8%減となる見込み。

現地情報会社によれば、5 月上旬現在の作付進捗率は 45%で前年度同期の 70%を下回っている。特に、ウェスタンオーストラリア州 (WA 州) では 20%で前年度同期の 70%を大きく下回っており、いずれも乾燥の影響を受けて作付作業が遅れが生じている。

USDA 「Weekly Weather and Crop Bulletin」(2024.5.14)によれば、WA 州の小麦地帯南部では散発的に降雨があり、表層の土壌水分量は作付けや初期の生長に十分である。一方で、サウスオーストラリア州及びビクトリア州の西部では乾燥した天候が続き、出芽に不向きな状況になっている。その他の小麦地帯では広範囲で降雨があり、作付けや初期の生長に必要な土壌水分量となっている。

西豪州穀物産業協会 (GIWA) (2024.5.10)によれば、2024/25 年度の WA 州における小麦の作付面積は、乾燥傾向が続く可能性があることから、前月予想 4.96 百万ヘクタールから 5.2%下方修正され 4.7 百万ヘクタールとなる見込み。なお、今後 2 週間で十分な降雨があった場合には、作付面積は増加する可能性がある。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、乾燥天候からの回復に伴い生産量が増加すること等により 22.5 百万トンと、前年度に比べ 9.8%増となるものの、過去 5 年平均(22.5 百万トン)と比べれば 0.2%減となる見込み。

ABARES によれば、2023/24 年度のうち 2023 年 10 月～2024 年 3 月の輸出量は 1,140.7 万トンと、前年度同期 (1,652.7 万トン) に比べ 31.0%減少している。輸出量の減少は乾燥により生産量が減少したことが主因。このうち、2024 年 3 月の輸出量は 257.5 万トンで、前年度同期 (376.7 万トン) に比べ 31.6%減少しており、輸出先国は、中国(28.8%)、インドネシア(16.0%)、イエメン(13.3%)の順で、アジア市場向けの輸出が多くなっている。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、生産量は増加するものの、乾燥天候からの回復に伴い輸出量が増加することから 2.8 百万トンと、前年度に比べ 9.8%減となる見込み。

## 小麦—豪州(冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)		
			予測値、( )はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	40.6	26.0	29.0 (30.1)	—	11.5
消費量	8.0	7.0	7.0 (8.3)	—	—
うち飼料用	4.5	3.5	3.5 (4.5)	—	—
輸出量	31.8	20.5	22.5 (21.5)	—	9.8
輸入量	0.2	0.2	0.2 (0.3)	—	—
期末在庫量	4.4	3.1	2.8 (2.9)	—	▲ 9.8
期末在庫率	11.0%	11.2%	9.4% (9.8%)	—	▲ 1.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)※	13.05	12.50	12.50 (12.50)	—	—
単収(t/ha)	3.11	2.08	2.32 (2.41)	—	11.5

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(10 May 2024)  
IGC 「Grain Market Report」(18 April 2024)

## 図 豪州の小麦の生産量・輸出量等の推移



資料: USDA 「PS&D」(2024.5.10)をもとに農林水産省で作成

## 表 豪州産小麦の輸出状況

(輸出量:万トン)

2024年3月			2023年10月～2024年3月			2022年10月～2023年3月		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
中国	74.2	28.8%	中国	291.8	25.6%	中国	444.0	26.9%
インドネシア	41.1	16.0%	インドネシア	206.0	18.1%	インドネシア	227.3	13.8%
イエメン	34.4	13.3%	フィリピン	99.8	8.7%	フィリピン	157.9	9.6%
ベトナム	17.8	6.9%	イエメン	80.5	7.1%	韓国	149.2	9.0%
韓国	16.2	6.3%	ベトナム	73.1	6.4%	ベトナム	135.3	8.2%
フィリピン	13.5	5.2%	日本	64.6	5.7%	タイ	90.7	5.5%
その他	60.3	23.4%	その他	324.8	28.5%	その他	448.2	27.1%
計	257.5	100.0%	計	1,140.7	100.0%	計	1,652.7	100.0%

資料:ABARES 「Trade dashboard」をもとに農林水産省で作成

## < EU27 > 2024/25年度の生産量は前年度比4.2%減の127.0百万トン

【生育・生産状況】欧州委員会(2024.4.25)によれば、2024/25年度の生産量は、2023年秋の多雨で冬小麦の作付けが困難となり、また、過剰な降雨等により前年度から収穫面積及び単収が減少することから127.0百万トンと、前年度比で4.2%減少する見込み。このうち、普通小麦は120.2百万トンと、前年度比で4.3%減、5年平均比でも5.2%減となる見込み。デュラム小麦も6.9百万トンと、前年度比で2.0%減、5年平均比でも7.4%減となる見込み。

2024/25年度の収穫面積は22.8百万ヘクタールと、前年度比で4.5%減少する見込み。普通小麦は20.8百万ヘクタールと前年度比で4.2%減少する見込みであるほか、デュラム小麦も2.0百万ヘクタールと前年度比で7.6%減少する見込み。2023年秋の多雨により冬小麦の作付けが困難となり、特にフランス、ドイツ等で収穫面積が減少する見込み。また、過剰な降雨によりスロバキア、チェコ、オーストリア、ドイツ等で前年度に比べ単収が減少する見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25年度の輸入量は、生産量は減少するものの、ウクライナにおける生産量の減少に伴い同国からの輸入量が減少するほか、大麦及びとうもろこしの生産量の増加に伴い飼料用小麦の輸入が減少することを受けて11.0百万トンと、前年度比18.5%減となるものの、過去5年平均(8.3百万トン)に比べ33.3%増となる見込み。

2024/25年度の輸出量は、主要輸出国であるフランスの生産量が2023年秋の多雨の影響により減少すること等により34.0百万トンと、前年度比で2.9%減、過去5年平均比(34.3百万トン)と比べれば0.9%減の見込み。

欧州委員会によれば、2023/24年度のうち2023年7月から2024年2月までの普通小麦の輸出量は2,477.8万トンで、前年度同期に比べ11.3%増加。同期間の輸出先国別のシェアは、モロッコ14.9%、アルジェリア10.3%、ナイジェリア8.6%、中国7.2%の順となっている。

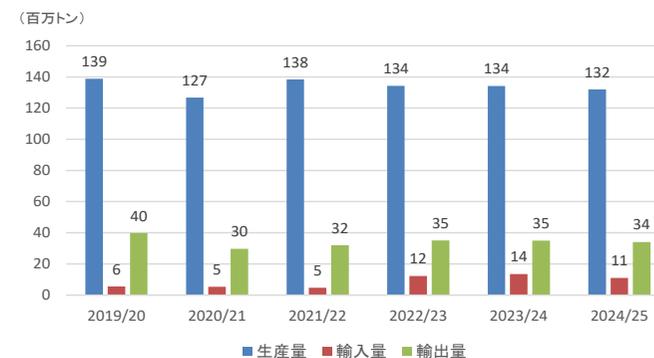
USDAによれば、5月8日時点における輸出価格(FOB)は、ロシア産が224ドル/トン、EU産が238ドル/トンとなっており、EU産は価格競争力のあるロシア産との競争が続いており、2024/25年度もロシア及びウクライナ産小麦との競争が続くと予想されている。

2024/25年度の期末在庫量は、生産量や輸入量が減少することから14.4百万トンと、前年度に比べ13.5%減となる見込み。

## 小麦—EU27 (冬小麦を主に栽培)

年度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25(24年7月～25年6月)		
			予測値、( )はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	134.3	134.2	132.0 (128.7)	—	▲ 1.6
消費量	109.0	112.0	111.3 (107.9)	—	▲ 0.7
うち飼料用	45.0	47.5	46.5 (44.0)	—	▲ 2.1
輸出量	35.1	35.0	34.0 (32.3)	—	▲ 2.9
輸入量	12.2	13.5	11.0 (6.4)	—	▲ 18.5
期末在庫量	16.0	16.7	14.4 (14.3)	—	▲ 13.5
期末在庫率	11.1%	11.4%	9.9% (10.2%)	—	▲ 1.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	24.40	24.20	23.40 (22.84)	—	▲ 3.3
単収(t/ha)	5.50	5.54	5.64 (5.64)	—	1.8
資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、 「World Agricultural Production」(10 May 2024) IGC 「Grain Market Report」(18 April 2024)					

図 EUの小麦の生産量・輸入量・輸出量の推移



資料: USDA 「PS&D」(2024.5.10)をもとに農林水産省で作成

表 EUの普通小麦の輸出量と輸出先国

国名	2024年2月		2023年7月-2024年2月		2022年7月-2023年2月			
	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)
モロッコ	56.2	19.1%	モロッコ	369.8	14.9%	モロッコ	321.7	14.5%
中国	48.6	16.5%	アルジェリア	254.4	10.3%	アルジェリア	300.4	13.5%
アルジェリア	43.4	14.8%	ナイジェリア	213.5	8.6%	ナイジェリア	190.5	8.6%
サウジアラビア	28.1	9.6%	中国	179.4	7.2%	エジプト	162.9	7.3%
ナイジェリア	22.0	7.5%	エジプト	143.2	5.8%	サウジアラビア	113.0	5.1%
韓国	8.8	3.0%	サウジアラビア	105.6	4.3%	中国	103.1	4.6%
その他	86.9	29.6%	その他	1,211.8	48.9%	その他	1,034.9	46.5%
合計	294.0	100.0%	合計	2,477.8	100.0%	合計	2,226.5	100.0%

資料: 欧州委員会「Cereals exports and imports」をもとに農林水産省で作成

## < 中国 > 2024/25 年度の生産量は 140.0 百万トンと史上最高の見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実生産量は、前年度から収穫面積及び単収が増加することから 140.0 百万トンと、前年度比 2.5%増、過去 5 年平均(135.8 百万トン)と比べても 3.1%増となり史上最高となる見込み。

中国国家気象センター「中国気象農業頻道」の 5 月上旬の情報によれば、2024/25 年度の冬小麦は、気温が平年に比べ高く、降水量も平年より多く土壌水分状態に恵まれた。また、日照時間は平年に近く、生育に適した天候となっている。

冬小麦の 4 月末現在の生育状況は、開花期から成熟期を迎えており、南部の雲南省では収穫が始まっており、生育は平年並みか平年より 3～8 日早くなっている。

また、2023/24 年度と比較した主要産地の冬小麦の単収は、河南省、四川省及び甘粛省は前年比 1.5%以上の増加が予想されており、それ以外の主要産地は前年比 1.5%以内の増減に収まり横ばいが予想されている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、経済成長による食生活の変化に伴い小麦粉需要が増加する一方、2023/24 年度に飼料用グレード国産小麦が増加していたものが減少し飼料用消費量が減少することから 150.0 百万トンと、前年度比 2.3%減となるものの、過去 5 年平均(146.1 百万トン)と比べると 2.7%増となる見込み。

USDA によれば、2024/25 年度の輸入量は、史上最高の生産量となり国内需給が緩和することから 11.0 百万トンと、前年度に比べ 4.3%減少する見込み。

中国海関統計によれば、2023 年 1 月から 12 月の輸入量合計は 1,209.9 万トンと、前年比 21.5%増となっており、これは収穫前の豪雨により高品質小麦の国内需給が逼迫したためである。同期間の輸入先国別のシェアは、豪州 57.4%、カナダ 21.1%、フランス 6.8%、米国 7.7%の順で、豪州及びカナダの 2 か国で輸入シェアの 79%を占めている。2024 年 1 月から 3 月の輸入量は 428.7 万トンで、豪州が 168.3 万トン、フランスが 105.9 万トン、カナダが 92.3 万トン、米国が 39.3 万トンとなっており、豪州の輸入シェアが約 40%に減少し、輸出先国のシェアが分散されている。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、生産量が増加するものの輸入量が減少し 132.6 百万トンと、前年度に比べ 0.1%増に留まる見込み。

## 小麦－中国（冬小麦を主に栽培）

(単位:百万トン)

年度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年7月～25年6月)		
			予測値、( ) は IGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	137.7	136.6	140.0 (138.5)	—	2.5
消費量	148.0	153.5	150.0 (146.3)	—	▲ 2.3
うち飼料用	33.0	37.0	33.0 (28.0)	—	▲ 10.8
輸出量	1.0	0.9	0.9 (1.2)	—	—
輸入量	13.3	11.5	11.0 (10.7)	—	▲ 4.3
期末在庫量	138.8	132.5	132.6 (140.2)	—	0.1
期末在庫率	93.2%	85.8%	87.9% (95.1%)	—	2.1

(参考)  
 収穫面積(百万ha) 23.52 23.63 23.70 (23.65) — 0.3  
 単収(t/ha) 5.86 5.78 5.91 (5.86) — 2.2  
 資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
 「World Agricultural Production」(10 May 2024)  
 IGC 「Grain Market Report」(18 April 2024)

### 図 中国の小麦の生産量・輸入量・消費量の推移



資料: USDA 「PS&D」(2024.5.10)をもとに農林水産省で作成

### 表 中国の小麦輸入量と輸入先国

国名	2024年1月～3月		2023年1月～3月		2023年1月～2023年12月	
	輸入量	シェア	輸入量	シェア	輸入量	シェア
豪州	168.3	39.3	253.3	58.2	693.9	57.4
フランス	105.9	24.7	77.4	17.8	82.5	6.8
カナダ	92.3	21.5	78.4	18.0	254.8	21.1
米国	39.3	9.2	20.4	4.7	92.6	7.7
カザフスタン	13.5	3.1	1.9	0.4	51.9	4.3
ロシア	8.6	2.0	1.9	0.4	28.5	2.4
その他	0.8	0.2	1.8	0.4	5.7	0.5
計	428.7	100.0	434.9	100.0	1,209.9	100.0

資料: 中国海関統計をもとに農林水産省で作成

## < ロシア > 2024/25 年度の生産量は前年度比 3.8%減の 88.0 百万トン

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度（クリミア地域分を含まず）の生産量は、前年度から収穫面積及び単収が減少することから 88.0 百万トンと、前年度比 3.8%減となるものの、過去 5 年平均（83.5 百万トン）と比べれば 5.4%増と史上 3 番目となる見込み。種類別には、冬小麦は前年度と変わらず 64.0 百万トンであるも、春小麦は 24.0 百万トンと前年度比 12.7%減の見込み。

ロシア気象センターによれば、2024/25 年度の冬穀物の状況は、ロシアヨーロッパ部の北部及び中部では、4 月は大部分の地域で平年より高い気温のため圃場の雪も早々に溶け、4 月末時点の冬穀物の作柄は概ね「良好」となっていた。また、ロシアヨーロッパ部南部では、4 月は気温が非常に暖かく乾燥した気象条件となっており、4 月末時点で冬小麦の作柄は「良好」又は「平年並み」となっていたが、両地域とも 5 月の寒波で冬小麦の生育に影響を与えるおそれがある。

ロシア農業省によれば、5 月 7 日現在の春小麦の作付面積は 242 万ヘクタールとなっており、作付進捗率は 18.2%で前年度同期 41%に比べ大幅に遅れている。これは主産地のシベリア地域の 4 月の気象条件が冬のような寒さに見舞われたことによる。また、ロシア気象センターによれば、ロシアアジア部のうち極東連邦管区の沿岸地方では、温暖な気候を受け、春小麦の作付けが始まっている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、供給量（期首在庫と生産量の合計）の減少により 52.0 百万トンと、史上最高となった前年度に比べ 2.8%減少するものの、過去 5 年平均（41.6 百万トン）に比べ 24.9%増加となる見込み。なお、生産量は減少するものの、EU 及びウクライナ産の生産量も減少することから、両国に比べ引き続き価格競争力を維持する可能性が高いと予想されている。

現地情報会社によれば、2023/24 年度のうち 2023 年 7 月から 2024 年 4 月までの輸出量は、4,473.9 万トンと、供給量の増加等を受け史上最高であった 2022/23 年度の同期間（4,060.4 万トン）を 10.2%上回った。なお、4 月の輸出量は 473.1 万トンで、輸出先国別には、エジプト 99.1 万トン（20.9%）、トルコ 52.5 万トン（11.1%）、バングラデシュ 43.1 万トン（9.1%）、サウジアラビア 38.7 万トン（8.2%）の順となっている。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、消費量及び輸出量は減少するものの、生産量も減少となることから 8.0 百万トンと、前年度に比べ 30.2%減となる見込み。

## 小麦—ロシア（主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培）

(単位:百万トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年7月～25年6月)		
			予測値、( )はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	92.0	91.5	88.0 (90.4)	—	▲ 3.8
消費量	42.3	41.0	39.8 (43.0)	—	▲ 3.0
うち飼料用	19.0	18.0	17.0 (18.4)	—	▲ 5.6
輸 出 量	48.0	53.5	52.0 (48.1)	—	▲ 2.8
輸 入 量	0.3	0.3	0.3 (0.1)	—	—
期末在庫量	14.1	11.4	8.0 (10.4)	—	▲ 30.2
期末在庫率	15.7%	12.1%	8.7% (11.4%)	—	▲ 3.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	29.00	28.83	28.50 (28.22)	—	▲ 1.1
単収(t/ha)	3.17	3.17	3.09 (3.20)	—	▲ 2.5

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(10 May 2024)  
IGC 「Grain Market Report」(18 April 2024)

図 ロシアの小麦の生産量・輸出量等の推移

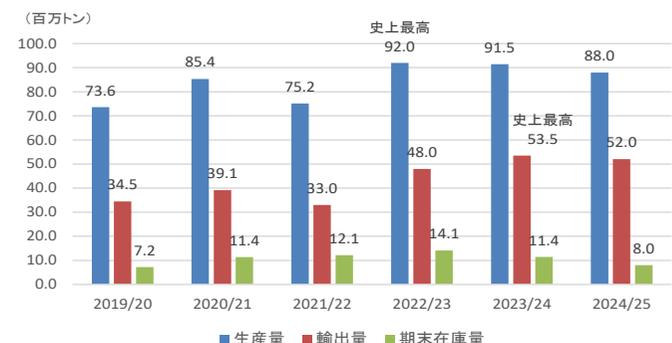


表 ロシア産小麦の輸出量と輸出先国

(輸出量:万トン、シェア:%)

2023/24年度 (2024年4月)			2023/24年度 (2023年7月～2024年4月)		
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア
エジプト	99.1	20.9	エジプト	710.2	15.9
トルコ	52.5	11.1	トルコ	595.6	13.3
バングラデシュ	43.1	9.1	バングラデシュ	334.1	7.5
サウジアラビア	38.7	8.2	パキスタン	213.0	4.8
カザフスタン	25.9	5.5	アルジェリア	193.5	4.3
ケニア	24.7	5.2	カザフスタン	182.0	4.1
リビア	19.2	4.1	サウジアラビア	179.9	4.0
その他	169.9	35.9	その他	2,065.6	46.2
計	473.1	100.0	計	4,473.9	100.0

資料：現地情報会社のデータをもとに農林水産省で作成

## <ウクライナ> 2024/25年度の生産量は前年度比8.7%減の21.0百万トン

【生育・生産状況】USDAによれば、2024/25年度の生産量(クリミア地域分を含む)は、ロシアの侵攻による耕作面積の減少により前年度から収穫面積及び単収が減少することから21.0百万トンと、前年度比8.7%減、ロシアのウクライナ侵攻前の過去5年平均(2017/18～2021/22年度、27.9百万トン)と比べても24.8%減と、2012/13年度の15.8百万トン以降最小の収穫量となる見込み。

ウクライナ農業政策食料省によれば、2024/25年度の冬小麦の作付面積は4.36百万ヘクタールと、ロシアの侵攻による耕作面積の減少により前年度から0.1百万ヘクタール減少する見込み。4月の気温は平年より5度以上高く、4月末時点での冬小麦の生育は、平年より10～14日ほど早くなっており、作柄は概ね平年並みとなっている。一方で、5月の寒波で冬小麦の生育に影響を与えるおそれがある。

2024/25年度の春小麦の作付面積は5月2日現在0.25百万ヘクタールと、前年度比0.2%減の見込み。5月10日現在の作付進捗率は予定面積に対して99.5%となっており、作付けはほぼ終了している。

【貿易状況・その他】USDAによれば、2024/25年度の輸出量は、生産量と期首在庫の減少により14.0百万トンと、前年度比20.0%減、ロシアのウクライナ侵攻前の過去5年平均(2017/18～2021/22年度、18.1百万トン)と比べても22.7%減となる見込み。

現地情報会社によれば、2023/24年度のうち2023年7月から2024年4月までの輸出量は、1,577.8万トンと、前年度同期1,444万トンに比べ9.3%増、ロシアのウクライナ侵攻前の2020/21年度同期1,512.1万トンと比べても4.3%増となっている。このうち、直近4月の輸出量は193.6万トンと過去5年平均比120.7%増となっており、輸出先国別には、スペインが69.1万トン(23.9%)、アルジェリアが23.6万トン(12.2%)、インドネシアが21.8万トン(11.3%)の順で、スペイン向けシェアが高くなっており、これは同国における乾燥天候による生産量の減少や飼料用小麦需要の増加等の影響を受けてのものである。

USDAによれば、2024/25年度の期末在庫量は、消費量及び輸出量は減少するものの、生産量も減少となることから1.1百万トンと前年度比10.2%減となり、史上2番目に低い水準となる見込み。

## 小麦－ウクライナ（主に冬小麦を栽培）

(単位:百万トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25(24年7月～25年6月)		
			予測値、( )はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	21.5	23.0	21.0 (24.5)	—	▲ 8.7
消費量	7.8	7.3	7.2 (12.0)	—	▲ 1.4
うち飼料用	3.0	2.5	2.5 (2.1)	—	—
輸 出 量	17.1	17.5	14.0 (12.5)	—	▲ 20.0
輸 入 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	—	—
期末在庫量	2.9	1.2	1.1 (1.4)	—	▲ 10.2
期末在庫率	11.6%	4.8%	5.0% (5.7%)	—	0.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	5.60	5.01	4.70 (6.00)	—	▲ 6.2
単収(t/ha)	3.84	4.59	4.47 (4.08)	—	▲ 2.6

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(10 May 2024)  
IGC 「Grain Market Report」(18 April 2024)

図 ウクライナの小麦の生産量・輸出量等の推移



資料：USDA 「PS&D」(2024.5.10)をもとに農林水産省で作成

表 ウクライナ産小麦の輸出先別数量 (単位:万トン)

2024年4月		2023年7月～2024年4月	
国名	輸出量	国名	輸出量
スペイン	69.1	スペイン	511.8
アルジェリア	23.6	エジプト	131.2
インドネシア	21.8	トルコ	106.3
ベトナム	13.9	インドネシア	106.1
バングラデシュ	13.6	ルーマニア	100.1
レバノン	9.6	パキスタン	81.4
エジプト	9.3	バングラデシュ	64.4
トルコ	9.2	イタリア	58.2
チュニジア	6.4	ベトナム	54.6
マレーシア	3.3	アルジェリア	50.7
その他	13.8	その他	312.9
合計	193.6	合計	1,577.8

資料：APK-Inform Agencyのデータをもとに農林水産省で作成

## 2 とうもろこし

(1) 国際的なとうもろこし需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2024/25 年度

**生産量** 前年度比 前月比 **—**

・ブラジル、EU、中国、南アフリカ等で増加も、米国、ウクライナ等で減少し、前年度を下回る見込み。

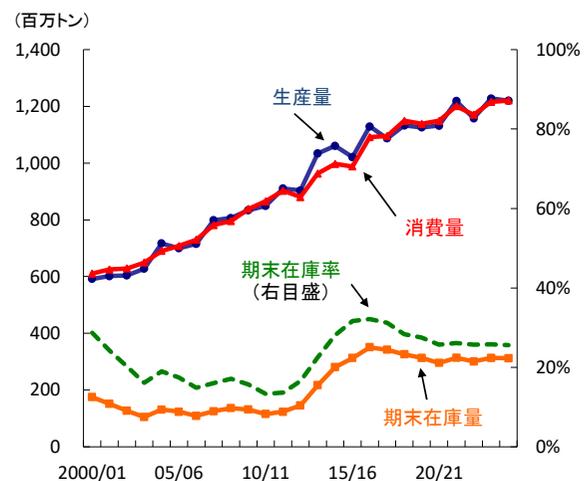
**消費量** 前年度比 前月比 **—**

・中国、インド、ブラジル、米国等で増加し、史上最高の見込み。

**輸出量** 前年度比 前月比 **—**

・米国、南アフリカ等で増加も、ウクライナ、アルゼンチン等で減少し、前年度を下回る見込み。

**期末在庫量** 前年度比 前月比 **—**



資料：USDA「PS&D」（2024.5.10）をもとに農林水産省にて作成

## ◎世界のとうもろこし需給

(単位：百万トン)

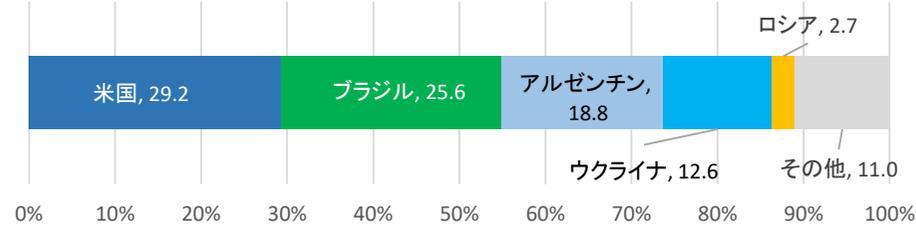
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	1,157.9	1,228.1	1,219.9	—	▲ 0.7
消費量	1,170.6	1,215.9	1,220.8	—	0.4
うち飼料用	732.1	760.3	774.0	—	1.8
輸出量	180.4	197.4	191.1	—	▲ 3.2
輸入量	173.5	185.8	184.4	—	▲ 0.7
期末在庫量	300.9	313.1	312.3	—	▲ 0.3
期末在庫率	25.7%	25.7%	25.6%	—	▲ 0.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」（10 May 2024）

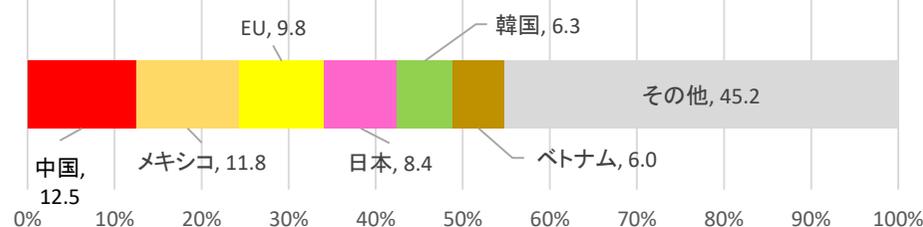
○ 2024/25 年度 世界のとうもろこしの生産量(1,219.9百万トン) (単位：%)



○ 2024/25 年度 世界のとうもろこしの輸出量(191.1百万トン) (単位：%)



○ 2024/25 年度 世界のとうもろこしの輸入量(184.4百万トン) (単位：%)



(2) 国別のとうもろこしの需給動向

< 米国 > 2024/25年度の生産量は、前年度より3.1%減

【生育・生産状況】USDAによれば、2024/25年度の生産量は、収穫面積の減少（対前年度比5.1%減）を受け、史上最高の前年度より3.1%減の377.5百万トンの見通し。現在の価格相場は大豆の作付けに有利であるため、多くの農家がとうもろこしから大豆の作付けに切り替えるとみられる。

USDA「Crop Progress」（2024.5.13）によれば、とうもろこしの作付進捗率は49%と、前年度同期（60%）、過去5年平均（54%）をいずれも下回っている。主要生産州のアイオワ州では、4月に降雨があり作付け作業が進展したものの、3月の干ばつを受けて例年のペースを下回っている。発芽率は23%と、前年度同期（25%）を下回ったものの、過去5年平均（21%）は上回っている。

「OIL WORLD Weekly」（2024.5.10）によれば、4月に降雨があり、多くの地域で発芽に好影響を与えた。

【需要状況】USDAによれば、2024/25年度の消費量は、安価なとうもろこし価格から飼料需要が増加したことを受けて前年度に比べ0.4%増の320.2百万トンの見通し。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25年度の輸出量は、輸出競合国であるブラジルやアルゼンチン、ウクライナからの輸出が減少する一方、メキシコ等からの需要が増大するとの見通しから、前年度より2.3%増の55.9百万トンの見込み。

USDA「Grain: World Markets and Trade」（2024.5.10）によれば、本年5月の米国産の輸出価格は、5月7日現在、輸出成約高が好調なことを受けて前月から11ドル/トン上昇し、204ドル/トン。なお、2023年9月～2024年4月の輸出量は3,072万トンと、前年度同時期の2,127万トンより44%増。主な輸出先は、メキシコ（950万トン）、中国（905万トン）、日本（318万トン）の順。干ばつにより減産したメキシコ向け輸出量が最も大きくなっている。

USDAによれば、2024/25年度の期末在庫量は、昨年の史上最高に次ぐ高水準の生産量となる見通しを受けて、前年度より4.0%増の53.4百万トンの見込み。期末在庫率は前年度より0.4ポイント上昇し14.2%と、過去3年平均（11.0%）を上回っている。

とうもろこし—米国

(単位：百万トン)

年度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年9月～25年8月)		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	346.7	389.7	377.5	-	▲ 3.1
消費量	306.0	318.9	320.2	-	0.4
うち飼料用	139.4	144.8	146.1	-	0.9
エタノール用等	131.5	138.4	138.4	-	-
輸出量	42.2	54.6	55.9	-	2.3
輸入量	1.0	0.6	0.6	-	-
期末在庫量	34.6	51.4	53.4	-	4.0
期末在庫率	9.9%	13.8%	14.2%	-	0.4

(参考)

収穫面積(百万ha)	31.85	35.01	33.23	-	▲ 5.1
単収(t/ha)	10.89	11.13	11.36	-	2.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」（10 May 2024）

図：米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格（FOB）の推移



資料：IGCのデータをもとに農林水産省にて作成。

## ＜ ブラジル ＞ 2024/25 年度の生産量は増加の見通し

【生育・生産状況】USDA によれば、本年9月以降作付けが開始される 2024/25 年度の実産量は、収穫面積の増加を受けて前年度より 4.1%増の 127.0 百万トンと、史上第2位の生産量となる見通し。

ブラジル食料供給公社 (CONAB) の月例報告 (2024.5.14) によれば、2023/24 年度のとうもろこしの生産量は、前年度比 15.4%減の 111.6 百万トンの見込み (P.23 大豆ーブラジルのクroppカレンダー参照)。夏とうもろこしは、エルニーニョ現象による南部での作付期の降雨過多の影響等により、前年度比 14.2%減の 23.5 百万トンの見込み。冬とうもろこしも、中西部の高温乾燥の影響を受け、前年度比 15.7%減の 88.1 百万トンの見込み。

USDA によれば、5月上旬、南部のリオ・グランデ・ド・スール州において多雨により洪水が発生し、長引く降雨により農地や保管施設の復旧が遅れている。リオ・グランデ・ド・スール州は、夏とうもろこしの主要生産州であり、とうもろこし全国の実産量の5%程度を占めている。リオ・グランデ・ド・スール州における夏とうもろこしの収穫進捗率は5月9日時点で83%と、収穫期の終盤を迎えているものの、保管施設等での被害も確認されており、損失が拡大する可能性もある。

一方、冬とうもろこしは、CONAB によれば、5月6日現在、主要生産州の中西部マット・グロッソ州では登熟期にあり、作柄は良く、土壌水分は十分。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、国内の畜産物消費の増加を背景とした飼料用需要の増加から、前年度より 1.3%増の 80.5 百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、供給量（前年度の期末在庫量と本年度の実産量の合計）の減少を受けて前年度より 2.0%減の 49.0 百万トンとなり、前年に引き続き米国に次ぐ世界第2位の輸出国となる見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2024年1～4月の輸出量は7.1百万トンで、史上最高の増産となった前年度より減産したことから前年度同期比31%減。内訳は、中国 (1.5百万トン)、イラン (0.9百万トン)、エジプト (0.7百万トン) の順。なお、とうもろこし輸出は、大豆の輸出が一巡し、輸送や港湾の輸出キャパシティに余裕が出てくる本年後半以降、冬とうもろこしの収穫を受け本格化するとみられる。

## とうもろこしーブラジル

(大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが約8割、夏とうもろこしは約2割)

(単位:百万トン)

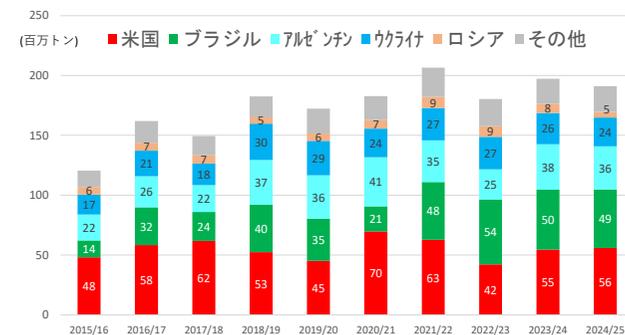
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (25年3月～26年2月)			
			予測値、( ) はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	137.0	122.0	127.0	(121.5)	-	4.1
消費量	78.0	79.5	80.5	(82.2)	-	1.3
うち飼料用	61.5	63.0	64.0	(56.5)	-	1.6
輸 出 量	54.3	50.0	49.0	(40.9)	-	▲ 2.0
輸 入 量	1.3	1.3	1.5	(2.0)	-	15.4
期末在庫量	10.0	3.8	2.8	(5.6)	-	▲ 26.0
期末在庫率	7.6%	3.0%	2.2%	(4.5%)	-	▲ 0.8

(参考)

収穫面積(百万ha)	22.40	21.50	22.30	(20.60)	-	3.7
単収(t/ha)	6.12	5.67	5.70	(5.90)	-	0.5

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(10 May 2024)  
IGC 「Grain Market Report」(18 April 2024)

## 図 世界のとうもろこし輸出国の輸出量の推移 (ブラジルは米国に次ぐ世界第2位の輸出国)



資料: USDA 「PS&D」(2024.5.10) をもとに農林水産省にて作成。

## < アルゼンチン > 2024/25 年度の生産量は、前年度から減少する見通し

【生育・生産状況】USDA によれば、本年9月以降作付けが開始される2024/25年度の生産量は、大豆の収益性が高まることで農家がとうもろこしの作付面積を減少させる見込みから、史上最高の前年度より3.8%減となるものの、過去5年平均より1.8%増の51.0百万トンとなる見込み。

USDA によれば、2023/24 年度の実績は、遅植えとうもろこしの単収が病害虫のヨコバイによる被害を受け低下する見込みを受けて、前月予測から2.0百万トン下方修正されたものの、早植えとうもろこしの単収は良好であり、干ばつにより減産した2022/23年度より47%増の53.0百万トンの見込み。

アルゼンチン政府によれば、5月9日時点でとうもろこしの収穫進捗率は29%と、前年度同期（32%）より遅れている。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前年度並みの14.8百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、史上最高の生産量となった前年度からの減産を受けて、前年度より5.3%減の36.0百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2023/24 年度のうち、2024年1～3月の輸出量は7.7万トンで、2022/23年産の減産から回復したことを受け、前年度同期（4.7万トン）比で64%増となった。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019年12月14日、輸出税を約7%から12%へ引き上げ、継続している。

前年12月10日、新大統領に右派のミレイ氏が就任した。同12日、カブート経済相は通貨ペソの公式レートを引下げ、1ドル=800ペソとした。

また、2021年12月以降、国内向け穀物供給不足の回避と食料品価格の上昇を抑制するため、小麦及びとうもろこしに輸出上限数量を設定していたものの、2024年5月、市場に対する規制改革の一環として、小麦及びとうもろこしの輸出上限数量の撤廃を決定した。

## とうもろこしーアルゼンチン

(単位:百万トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (25年3月～26年2月)		
			予測値、( ) はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	36.0	53.0	51.0 (60.0)	-	▲ 3.8
消費量	14.2	14.8	14.8 (21.3)	-	-
うち飼料用	10.0	10.4	10.3 (16.0)	-	▲ 1.0
輸 出 量	25.2	38.0	36.0 (37.5)	-	▲ 5.3
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	▲ 50.0
期末在庫量	1.3	1.5	1.7 (3.1)	-	13.0
期末在庫率	3.3%	2.9%	3.4% (5.2%)	-	0.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	6.75	7.00	6.40 (8.10)	-	▲ 8.6
単収(t/ha)	5.33	7.57	7.97 (7.28)	-	5.3

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(10 May 2024)  
IGC 「Grain Market Report」(18 April 2024)

## 写真: 北部サンタフェ州の遅植えとうもろこしの圃場風景 (2024年4月30日撮影)



本圃場のとうもろこしは2023年12月末に作付けされ、現在、成熟期にある。本圃場では、ヨコバイによる被害は確認されていない。  
収穫は7月に予定されており、予想単収は7～8トン/ヘクタール。

## < 中国 > 2024/25 年度の生産量は、前年度から増加する見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2024/25 年度の実産量は、作付面積の増加見込みを受けて、前年度より 1.1%増の 292.0 百万トンとなり、史上最高となる見込み。

中国国家気象センター「中国気象農業頻道」によれば、5月上旬現在、四川省では七葉期を迎えており、主産地の黒竜江省では作付期を迎えている。

USDAによれば、5月上旬、東北部において降雨があり、例年より温暖な気候を受けて作付けが進展するとみられる。

【需要状況】USDAによれば、2024/25 年度の消費量は、飼料用需要が増大し、前年度より 2.0%増の 313.0 百万トンと史上最高の見込み。背景には国内の堅調な食肉需要があり、中国国家统计局（2024.1.17）によれば、2023 年の食肉生産量は 9,641 万トンと、前年比で 4.5%増。ただし、業界情報によれば、直近では中国の経済成長が鈍化し、豚肉の価格が低迷する中、中国政府は 3 月から国内の養豚飼育数の生産目標を減らす供給過剰対策を開始しており、飼料用需要減少につながるの見方もある。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25 年度の輸入量は、ブラジル産及びウクライナ産への堅調な需要が続くことから、前年度並みの 23.0 百万トンの見込み。

中国海関統計によれば、2024 年 1～3 月の輸入量は、前年度同期より 5.1%増の 790.1 万トン。内訳は、ブラジル（528.4 万トン）、ウクライナ（153.5 万トン）、米国（87.7 万トン）の順。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2024 年 3 月号」によると、3 月の国内価格は、工業用の需要が下支えしており、2,500 元/トンと前月（2,480 元/トン）から小幅に上昇した。また、3 月の輸入価格は、2,120 元/トンと前月（2,160 元/トン）から下落し、前年同月（2,660 元/トン）より低水準で推移している。3 月の内外価格差は 2 月より拡大し、2022 年 12 月以降、国内価格が輸入価格より高い状況が続いている。

USDAによれば、2024/25 年度の期末在庫量は、増産により前年度より 0.9%増の 212.8 百万トンの見込み。

## とうもろこし—中国

(単位：百万トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)		
			予測値、( )はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	277.2	288.8	292.0 (293.0)	-	1.1
消費量	299.0	307.0	313.0 (315.5)	-	2.0
うち飼料用	218.0	225.0	231.0 (213.0)	-	2.7
輸 出 量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	-	-
輸 入 量	18.7	23.0	23.0 (22.0)	-	-
期末在庫量	206.0	210.9	212.8 (179.2)	-	0.9
期末在庫率	68.9%	68.7%	68.0% (56.8%)	-	▲ 0.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	43.07	44.22	44.70 (44.20)	-	1.1
単収(t/ha)	6.44	6.53	6.53 (6.63)	-	-

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(10 May 2024)  
IGC「Grain Market Report」(18 April 2024)

## 表 中国のとうもろこし輸入量と輸入元国

(輸入量：万トン、シェア：%)

2024年1～3月			2023年1月～2023年12月			2022年1月～2022年12月		
国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア
ブラジル	528.4	66.9	ブラジル	1,280.6	47.2	米国	1,486.5	72.1
ウクライナ	153.5	19.4	米国	714.4	26.3	ウクライナ	526.4	25.5
米国	87.7	11.1	ウクライナ	551.8	20.3	ミャンマー	19.4	0.9
ロシア	5.8	0.7	ブルガリア	73.9	2.7	ブルガリア	14.7	0.7
南アフリカ	5.6	0.7	ミャンマー	38.1	1.4	ロシア	9.5	0.5
ブルガリア	4.6	0.6	ロシア	29.4	1.1	ラオス	5.1	0.2
その他	4.5	0.6	その他	24.5	0.9	その他	0.2	0.0
計	790.1	100	計	2,712.7	100	計	2,061.8	100

資料：中国海関統計をもとに農林水産省で作成。

## < ウクライナ > 2024/25 年度の生産量は、前年度より 12.9%減

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実績は、油糧種子への作付のシフトを受けて収穫面積が減少（対前年度比 5.0%減）し、天候に恵まれ史上第 2 位となった前年度から単収も減少（対前年度比 8.3%減）する見込みを受け、前年度より 12.9%減、侵攻前の史上最高の豊作となった 2021/22 年度から 35.9%減の 27.0 百万トンとなる見通し。

ウクライナ農業政策食料省によれば、5 月 2 日現在、作付進捗率は 50%と、前年度同期（26%）より進んでいる。温暖な気候で降雨過多もないため、作付は順調に進展しているとみられる。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、減産による供給減を受けて前年度より 9.2%減の 4.5 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、供給量（前年度の期末在庫量と本年度の生産量の合計）の減少、主要輸出先である EU での増産による輸入需要の減少の影響を受け、前年度より 7.7%減、侵攻前の 2021/22 年度からも 11.1%減の 24.0 百万トンの見込み。オデーサ港から陸路を経由せず直接臨時回廊を経由するルートによる輸出も増加しつつあり、2024/25 年度は、EU 向けの輸出は減少することもあり、輸出先が多様化する見込み。

ウクライナ政府等によれば、臨時回廊による輸出が本格化した 2023 年 10 月～2024 年 4 月の輸出量は 1,953 万トン（海上輸送、陸路等による全ての輸出が含まれる）と、黒海穀物イニシアティブの履行停止直後の 2023 年 7～9 月と比較し、月平均で 221.4%増となるも、ロシアによるウクライナ侵攻前の 2019 年 10 月～2020 年 4 月と比較し 19.2%減。輸出先国は、スペイン（465.4 万トン）、中国（367.4 万トン）、エジプト（259.2 万トン）、イタリア（158.4 万トン）の順。2023/24 年度に干ばつとなったスペイン向けが最大となっている。上記の輸送手段としては、港湾が 9 割弱、鉄道・トラック等が 1 割程度となっている。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、減産による供給減から前年度より 49.1%減、侵攻前の 5 か年平均より 40%減の 1.5 百万トンの見込み。2024/25 年度の期末在庫率は、前年度から 4.2 ポイント減の 5.2%となる見込み。

## とうもろこし-ウクライナ

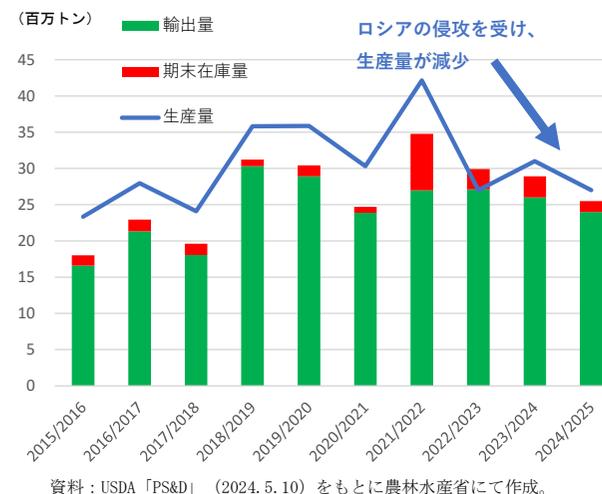
(単位：百万トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)		
			予測値、( ) はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	27.0	31.0	27.0 (27.7)	-	▲ 12.9
消費量	4.9	4.9	4.5 (6.3)	-	▲ 9.2
うち飼料用	4.0	3.9	3.5 (4.5)	-	▲ 10.3
輸出量	27.1	26.0	24.0 (21.5)	-	▲ 7.7
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	2.8	2.9	1.5 (4.4)	-	▲ 49.1
期末在庫率	8.7%	9.4%	5.2% (15.8%)	-	▲ 4.2
(参考)					-
収穫面積(百万ha)	4.05	4.00	3.80 (4.06)	-	▲ 5.0
単収(t/ha)	6.67	7.75	7.11 (6.83)	-	▲ 8.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(10 May 2024)  
IGC 「Grain Market Report」(18 April 2024)

### 図 とうもろこしの生産量、輸出量、期末在庫量の推移

(2024/25 年度の輸出量は、2017/18 年度以来の低水準の見通し)



### 3 コメ

#### (1) 国際的なコメ需給の概要（詳細は右表を参照）

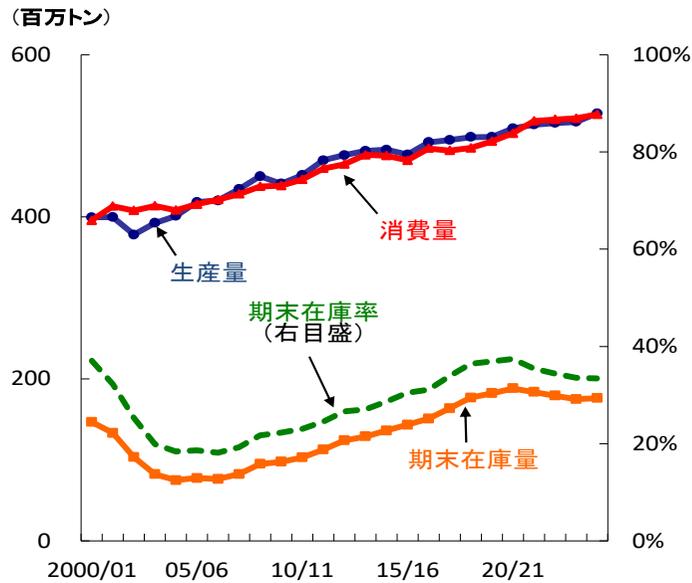
＜米国農務省（USDA）の見通し＞ 2024/25年度

**生産量** 前年度比 前月比 **-**  
 ・インド、中国、パキスタン等で増加した。前年度を上回り、史上最高の見込み。

**消費量** 前年度比 前月比 **-**  
 ・中国等で減少も、インド、インドネシア等で増加した。前年度を上回り、史上最高の見込み。

**輸出量** 前年度比 前月比 **-**  
 ・タイ、ベトナム等で減少も、インド等で増加し、前年度を上回る見込み。

**期末在庫量** 前年度比 前月比 **-**



資料：USDA「PS&D」（2024.5.10）をもとに農林水産省にて作成

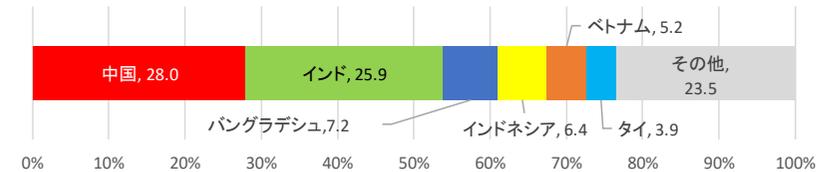
#### ◎世界のコメ需給

（単位：百万精米トン）

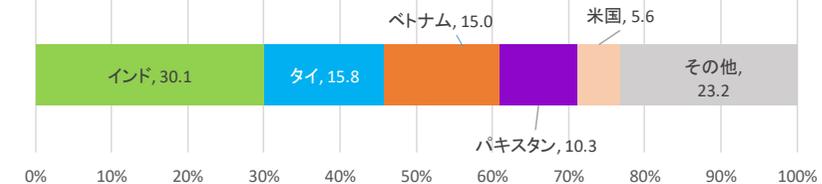
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	515.8	517.3	527.6	-	2.0
消費量	520.3	521.6	526.4	-	0.9
輸出量	54.6	53.2	53.8	-	1.0
輸入量	56.6	50.5	50.0	-	▲ 1.0
期末在庫量	179.2	174.9	176.1	-	0.7
期末在庫率	34.4%	33.5%	33.5%	-	▲ 0.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(10 May, 2024)

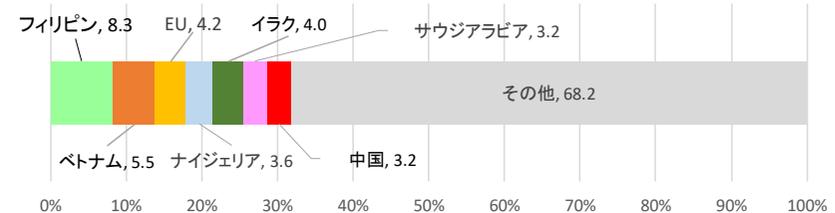
#### ○ 2024/25年度 世界のコメの生産量(527.6百万トン) (単位：%)



#### ○ 2024/25年度 世界のコメの輸出量(53.8百万トン) (単位：%)



#### ○ 2024/25年度 世界のコメの輸入量(50.0百万トン) (単位：%)



## (2) 国別のコメの需給動向

### < 米国 > 2024/25 年度の生産量は増加の見込み

【生育・生産動向】USDAによれば、2024/25 年度の実生産量は、前年度比 0.9%増の 7.0 百万トンの見込み。2023 年末から 2024 年初頭の主として南米からの需要増加による国内価格の上昇や、国際価格の高騰継続見込みを受け、作付意向調査（2024.3.28）で長粒種の作付面積増大が短粒種の作付面積減少を上回り、収穫面積が増大（前年度比 0.9%増）することが要因。

同「Weekly Weather」（2024.5）によれば、4 月は平年より高めの気温と多雨がみられた。ただ、中・短粒種の主産地において、4 月末から 5 月初頭に豪雨がいった。

同「Crop Progress」（2024.5.13）によれば、長粒種について、主要生産 6 州の 5 月 12 日時点の作付進捗率は 84%と、作付けに適した気温と十分な土壌水分を受けて前年同期（80%）、過去 5 年平均（72%）より進捗しているとともに、発芽率も 69%と、前年同期（62%）、過去 5 年平均（51%）より進捗している。作柄評価は「やや良から良」が 79%と、前年同期（70%）を上回っている。なお、中・短粒種の主要生産州のカリフォルニア州は 4 月下旬に作付けを開始。作付進捗率は 30%と、前年同期（33%）とほぼ同水準も、4 月末の作付期初期における豪雨等の影響から過去 5 年平均（52%）より遅れている。発芽率は 0%と、前年同期（2%）、過去 5 年平均（9%）より低い。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25 年度の消費量は、増産による供給量増加の見込みから、前年度比 1.8%増の 5.1 百万トンと史上最高の見込み。

2024/25 年度の輸入量は、アジア諸国から香米の輸入増加の継続から、前年度より 3.8 万トン増加し、前年度比 2.2%増の 1.4 百万トンと史上最高の見込み。

2024/25 年度の輸出量は、国内生産量の増加と、それに伴う価格下落予想から、前年度比 6.4%増の 3.2 百万トンの見込み。2023/24 年度(2023 年 8 月 1 日~2024 年 5 月 2 日)の主な輸出先国はメキシコ（76.2 万トン）、ハイチ（33.0 万トン）、日本（30.0 万トン）の順。

USDA「Rice Outlook」（2024.5.14）によれば、5 月 7 日までの週のイラク向け長粒種（2 等、砕米 4%混入）の価格は 800 ドル/トンと、中南米諸国からの需要増大を受け、本年 4 月から 2008 年 8 月以来の水準（805 ドル/トン）に高止まりしている（P.20 の「長粒種の FOB 価格の推移」を参照）。地中海向けカリフォルニア米（1 等、砕米 4%混入）である中粒種の 5 月 7 日までの週の価格は、生産量の増加見込みを受け 835 ドル/トンと、2023 年 9 月初旬の史上最高値（1,650 ドル/トン）から 815 ドル/トン下落し、本年 2 月以降、2021 年 5 月（983 ドル/トン）以来の安値となっている。

## コメー米国

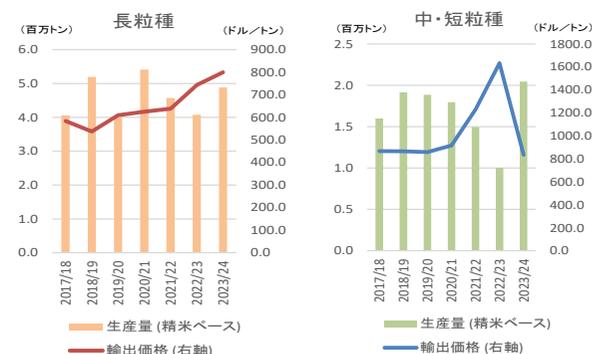
主に長粒種はミシシッピ川沿いで栽培、中・短粒種のシェアは 1/4  
米国のコメ生産に占めるカリフォルニア州のシェアは約 2 割

(単位:百万精米トン)

年度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年8月~25年7月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	5.1	6.9	7.0	-	0.9
消費量	4.6	5.0	5.1	-	1.8
輸出量	2.0	3.0	3.2	-	6.4
輸入量	1.3	1.4	1.4	-	2.2
期末在庫量	1.0	1.3	1.5	-	11.5
期末在庫率	14.4%	16.3%	17.6%	-	1.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	0.88	1.16	1.17	-	0.9
単収(もみt/ha)	8.28	8.57	8.56	-	▲ 0.1

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(10 May 2024)

図:米国の長粒種と中・短粒種の生産量・輸出価格の推移



資料:USDA「Rice Outlook」(2024.5.14)より。価格は年度内の平均価格。なお、2024/25年度は2024年5月の価格。

## < インド > 2024/25 年度の生産量は史上最高の見込み

【生育・生産動向】USDAによれば、2024/25 年度の実生産量は、138.0 百万トンと、前年度比で 3.0%増加、過去 5 年平均比で 7.4%増加し、史上最高の見込み。昨年と異なり、2024 年の雨期が平年通り 5 月から始まるとの予想から、収穫面積は 48.50 百万ヘクタール(前年度比 1.0%増)、単収は 4.27 もみトン／ヘクタール(前年度比 1.9%増)となることが要因。

農産物市場情報システム(2024.5)によると、5月2日現在、播種期及び生育期に水不足に見舞われた南部の州を除き、ラビ米の収穫が概ね良好に進捗している。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25 年度の消費量は、インフレ懸念を受けて政府が備蓄米を市場に放出すると予想されていることもあり、前年度比 3.0%増の 120.0 百万トンの見込み。なお、政府は市場からコメ等を調達の上、低所得世帯(8.80 億人以上)を対象とし、無償又は低価格で配給している。2023/24 年度の調達量は 52.5 百万トンと、インド全体の消費量の半分に相当し、市場のコメ流通量が限られることから、政府による配給向けの調達が国内価格高止まりの一因とみられる。

2024/25 年度の輸出量は、供給量(生産量の増大と前年度の期末在庫の合計)の増加を受け、前年度比 12.5%増の 18.0 百万トンの見込み。依然として世界第 1 位の輸出シェアを維持しており、世界全体のコメ輸出総量の約 30%を占める。2023 年 10 月から 2024 年 2 月までの主な輸出先国は、サウジアラビア(54.8 万トン)、イラン(33.6 万トン)、ベナン(32.9 万トン)、イラク(31.4 万トン)の順。サウジアラビア等中東諸国向けはバスマティ米の輸出が主流となっている。

なお、インドは、非バスマティ米を中心に、2022 年 9 月 9 日以降、様々な輸出規制を発動・強化している。本年 2 月 21 日には、インド財務省が、本年 3 月 31 日までの予定だったパーボイルド米の 20%の輸出関税を無期限に延長した。詳細は右表を参照のこと。

USDA「Grain: World Markets and Trade」(2024.5.10)によれば、インド産米(砕米 5%混入)の価格は、輸出規制強化後のデータが提示されていない。なお、規制前の 2022 年 7 月時点の輸出価格は 485 ドル/トンと、アジア主要輸出国の中で最低水準の価格となっていた(P.20の「長粒種の FOB 価格の推移」を参照)。

2024/25 年度の期末在庫量は、前年度並みの 36.5 百万トンの見込み。

## コメーインド

雨季をカリフ、乾季をラビと呼ぶ。北部はカリフ・ラビ(小麦)の二毛作、南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

(単位:百万精米トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月~25年9月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	135.8	134.0	138.0 (133.0)	-	3.0
消費量	114.5	116.5	120.0 (114.0)	-	3.0
輸出量	20.3	16.0	18.0 (15.2)	-	12.5
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	35.0	36.5	36.5 (39.9)	-	-
期末在庫率	26.0%	27.5%	26.4% (30.9%)	-	▲ 1.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	47.83	48.00	48.50 (47.83)	-	1.0
単収(もみt/ha)	4.26	4.19	4.27 (2.84)	-	1.9

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(10 May 2024)  
IGC「Grain Market Report」(18 April 2024) (単収は精米t/ha)

表:インドのコメ輸出規制(2022 年 9 月 9 日~)

対象品目	措置内容	発動日
全ての種類のコメの粳 (HS 1006 10)	輸出税(20%)	2022.9.9~
全ての種類のコメの玄米 (HS 1006 20)	輸出税(20%)	2022.9.9~
バスマティ米・精米 (HS1006 30 20)	関税:12,000ルピー/t (日本円で約2万円/t)	(法定税率)
	最低輸出価格導入 (1,200ドル/トン→950ドル/トンに引き下げ (2023.10.26~))	2023.8.27~
パーボイルド米・精米 (HS1006 30 10)	輸出税(20%)	2023.8.25~
バスマティ米・パーボイルド米以外の精米 (HS1006 30 90)	輸出禁止	2023.7.20~ 2024.12.31
砕米 (HS1006 40 00)	輸出禁止	2022.9.9~

※食料安全保障上の理由でインド政府が認める場合は、輸出を許可。  
※有機米は本措置の対象外。  
資料:インド政府の公示等をもとに農林水産省にて作成。

## < 中国 > 東北部は4月末で作付終了、東部・南部の早稲の生育は順調

【生育・生産動向】USDAによれば、2024/25年度の生産量は、収穫面積の増加（前年度比0.2%増）及び史上最高の単収（前年度比0.7%増）が見込まれることから、前年度比1.0%増の146.0百万トンの見込み。収穫面積の増大は、小麦やとうもろこしに比べて収益が見込まれることや、政府の最低支持価格の上昇、及び二期作の推進が要因とみられる。

USDA「Weekly Weather」（2024.5）及び中国国家気象センター「中国気象農業頻道」（2024.5）によると、4月は東北地方の大部分で好天と降雨に恵まれ、土壌水分量は十分となっている。一期作稲の播種は基本的に完了し、苗の生育は良好。5月上旬現在、長江中下流域と南部の早稲は、降雨に恵まれ、栄養生長期にある。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25年度の消費量は、2023年9月以降のとうもろこし価格低下による飼料用とうもろこし需要増大に伴い、飼料用米の代替需要が減少となっているほか、高齢化の進展や若年層の食生活の西洋化等に伴う食用需要の減少から、前年度比2.2%減の145.0百万トンの見込み。

2024/25年度の輸入量は、特に飼料用の国内消費量減少や生産量の微増から、前年度比6.3%減の1.5百万トンの見込み。中国はこれまで、もち米や香米に加え、特にとうもろこし等飼料用穀物の価格高騰を背景に、代替としてインド等から砕米を輸入してきたが、2022年9月以降、インドの輸出禁止等により輸入量は規制前の年度（2021/22年度、6.0百万トン）と比較して71.7%減少している（2022/23年度）。なお、中国海関統計によれば、2024年1～3月の輸入量は30.2万トン（前年同期比69.7%減）となった。輸入国別では、1位がタイ（37.7%）、2位はミャンマー（34.6%）、3位がベトナム（15.8%）の順。

また、2024/25年度の輸出量は、とうもろこし価格低下を受けた古米等への飼料用代替需要減少を受けた軟調な需要に基づく輸出ペースが続くと予想されることから、前年度比6.3%減の1.5百万トンの見込み。

期末在庫量は、生産量の増加予測を受け、前年度比1.0%増の104.0百万トンの見込み。なお、インドの期末在庫量（36.5百万トン）と合計すると世界の期末在庫量の約80%を占める。

## コメー中国

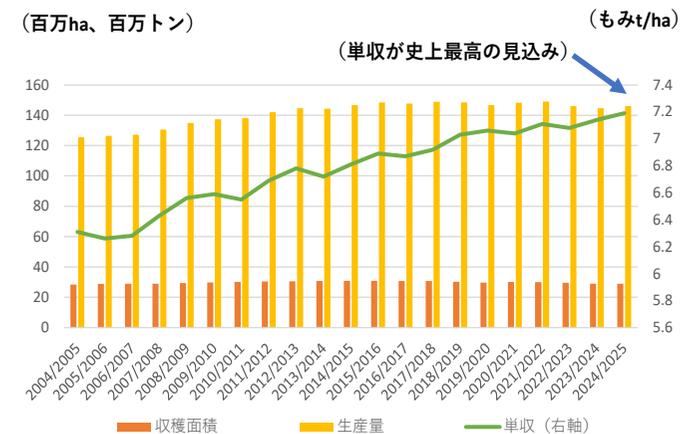
北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは3割程度

(単位:百万精米トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年7月～25年6月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	146.0	144.6	146.0 (145.0)	-	1.0
消費量	155.0	148.2	145.0 (146.7)	-	▲ 2.2
輸出量	1.7	1.6	1.5 (2.2)	-	▲ 6.3
輸入量	4.4	1.6	1.5 (3.0)	-	▲ 6.3
期末在庫量	106.6	103.0	104.0 (100.5)	-	1.0
期末在庫率	68.0%	68.7%	71.0% (67.5%)	-	2.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	29.45	28.95	29.00 (29.45)	-	0.2
単収(もみt/ha)	7.08	7.14	7.19 (4.96)	-	0.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(10 May 2024)  
IGC「Grain Market Report」(18 April 2024) (単収は精米t/ha)

図：中国の生産量、収穫面積、単収の推移  
(2004/05～2024/25年度)



資料：USDA「PS&D」(2024.5.10)をもとに農林水産省にて作成

## < タイ > 乾期米の収穫は完了、一部地域で雨期米の作付けを開始

【生育・生産動向】USDAによれば、2024/25年度の生産量は、雨期の開始が遅れ降雨量が少なかった2023年に比べ、2024年は平年通りの雨期（例年5月～10月）となり、収穫面積の回復（前年度比0.5%増）が見込まれることから、前年度比0.5%増の20.1百万トンの見込み。

USDA及び現地情報によると、4月は例年、雨期の到来に向けて降雨量が増え始めるが、エルニーニョ現象による天候不順の影響で例年に比べて全国的に降雨量が少なく、米の主要産地である北部、東北部及び中部の降雨量も例年に比べて60-90%少なかった。気温も全国平均では例年比で2.6度高く、1950年代からの観測史上で最高気温を記録した地点も多かった。乾期米が収穫の最盛期を迎える中、灌漑用水不足に加え、高温障害が収量に与える影響への懸念もあり、前年度比で乾期米の作付面積、収穫量が減少する見込み。なお、5月上旬にまとまった降雨があり、高温の影響が緩和され、雨期作に向け土壌水分が補充された。

アセアン食料安全保障情報システム(2024.5)及び現地情報によると、乾期米の収穫はほぼ完了。エルニーニョ現象による少雨の影響で灌漑用水が不足し、作付面積が減少したことや、干ばつによる影響から、生産量は前年度比で10%程度減少の見込み。一方、雨期米について、一部地域で作付けが始まっている。価格高騰による増収期待から多くの農家が作付面積を拡大させており、作付面積は増加見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25年度の輸出量は、政府備蓄の不足に対処するため輸入を拡大していたインドネシアからの需要が減少する見込みから、前年度比10.7%減の7.5百万トンの見込み。

2023/24年度の輸出量は、降雨不足等による減産見込みから、前年度比3.9%減の8.4百万トンの見込み。

タイ関税局によれば、2024年1～3月の輸出量は、前年同期比19.4%増の246.5万トンとなった。このうち、政府備蓄の不足に対処するため輸入を拡大しているインドネシア向けの輸出量は、前年同期の27.0万トンから倍増して62.7万トンと、最大の輸出先国となった。また、米国は21.9万トン（前年同期17.8万トン）、エルニーニョ現象による降雨不足で減産が見込まれるフィリピンは20.4万トン（同2.4万トン）、検疫問題で7年間輸入を停止していたタイ産米の輸入を2022年に再開したイラクは17.5万トン（同33.8万トン）をそれぞれ輸入した。

USDA「Grain: World Markets and Trade」（2024.5.10）及び「Rice Outlook」（2024.5.14）によれば、5月7日までの週のタイ産米（長粒、2等精米）の輸出価格は、東南アジア諸国からの需要継続見込みから、前月より23ドル/トン上昇し、613ドル/トンとなった（P.20の「長粒種のFOB価格の推移」を参照）。

## コメータイ

夏の雨季作と冬の乾季作で行われる。主にインディカ米を栽培

(単位: 百万精米トン)

年度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (25年1月～25年12月)			
			予測値、()はIGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)	
生産量	20.9	20.0	20.1 (20.5)	-	0.5	
消費量	12.6	12.6	12.6 (12.7)	-	-	
輸出量	8.7	8.4	7.5 (8.3)	▲	10.7	
輸入量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	-	
期末在庫量	3.8	2.9	3.0 (2.8)	-	3.5	
期末在庫率	17.6%	13.6%	14.7% (13.5%)	-	1.1	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	11.07	10.65	10.70 (11.00)	-	0.5	
単収(もみt/ha)	2.86	2.85	2.85 (1.89)	-	-	

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(10 May 2024)  
IGC「Grain Market Report」(18 April 2024) (単収は精米t/ha)

表: タイの国別輸出量

(単位: 万トン)

国名	2023年 1-3月	2024年 1-3月	増減量
1 インドネシア	27.0	62.7	35.7
2 米国	17.8	21.9	4.1
3 フィリピン	2.4	20.4	18.0
4 イラク	33.8	17.5	-16.4
5 コートジボワール	1.6	12.1	10.5
6 モザンビーク	5.0	12.1	7.2
7 南アフリカ	17.0	9.4	-7.6
8 中国	11.0	7.9	-3.1
9 マレーシア	2.0	7.6	5.6
10 セネガル	12.1	6.7	-5.4
計	206.4	246.5	40.1 (前年比19.4%増)

資料: タイ関税局 (2024.5)

## < ベトナム > 南部メコンデルタ地域の冬春作（乾季米）は海水侵入で単収減少

【生育・生産動向】USDAによれば、2024/25年度の生産量は、収穫面積の微増が単収減少の影響を相殺することから、前年度並みの27.0百万トンの見込み。なお、南部沿岸地域における海水の浸潤やメコン川の水流量減少、肥料価格の高騰や高収益作物等（果物・野菜・養殖）への転換等から、収穫面積が史上最高の2014/15年度（782.3万ヘクタール）を境に緩やかな低下傾向にある。

アセアン食料安全保障情報システム（2024.5）によると、①北部は、冬春作（乾季米）が出穂期から登熟期にある。良好な天候と豊富な灌漑用水から、収量は増加見込み。②南部では、冬春作（乾季米）が収穫期にある。1.89百万ヘクタールの作付面積のうち、現時点の収穫面積は1.69百万ヘクタール（89.4%）。現時点での単収は、6.94もみトン／ヘクタールで、メコンデルタ地域の海水の浸潤から、2023年同時期より0.05トン／ヘクタール減少の見込み。③メコンデルタ地域では、夏秋作（雨季米）の作付けが最盛期を迎えており、現在の作付面積は0.64百万ヘクタールと、国際価格高騰等を受けた作付意欲向上により、前年度比で124.4%増加。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25年度の輸出量は、生産量は昨年並みも、飼料用需要等の増加により国内消費量が増加する見込みから、前年度比6.3%減の7.5百万トンの見込み。

USDA及び現地情報によれば、2023/24年度の輸出量は、アジア諸国等からの精米輸入需要が落ち着く見込みから、前年度比2.8%減の8.0百万トンの見込み。なお、インドネシアでは、2023年10-12月にかけて、エルニーニョ現象による降雨不足等の影響を受けたコメの減産見込み等から、輸入量が増加した。2023年（1-12月）は合計306.3万トンを輸入し、うちベトナム産の輸入は114.8万トン（37.5%）。なお、2024年1-4月のコメの収穫量も前年度比で減少する見込みから、インドネシア政府は合計360万トンの輸入枠を決定した。

ベトナム関税総局によれば、2024年1-4月の輸出量は317.0万トンと、前年同期（289.5万トン）に比べ9.5%増加した。主な輸出先国は、フィリピン（149.0万トン、15.9%増）、インドネシア（54.9万トン、79.0%増）、マレーシア（20.2万トン、26.3%増）、中国（16.9万トン、66.7%減）の順。

USDA「Grain: World Markets and Trade」（2024.5.10）及び「Rice Outlook」（2024.5.14）によれば、ベトナム産米（長粒種、5%碎米混入）の5月7日までの週の価格は、東南アジア諸国から需要継続見込みから、前月の価格より10ドル／トン上昇し、595ドル／トンとなった。

## コメベトナム

北部で二期作、南部で二期作・三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培

（単位：百万精米トン）

年度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (25年1月～25年12月)		
			予測値、()はIGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	26.9	27.0	27.0 (28.6)	-	-
消費量	21.9	22.0	22.1 (22.0)	-	0.5
輸出量	8.2	8.0	7.5 (8.0)	-	▲ 6.3
輸入量	2.8	2.8	3.0 (1.6)	-	7.3
期末在庫量	2.4	2.2	2.5 (2.9)	-	16.1
期末在庫率	8.0%	7.2%	8.5% (9.5%)	-	1.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	7.10	7.15	7.15 (7.11)	-	-
単収(もみt/ha)	6.07	6.05	6.04 (3.90)	-	▲ 0.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(10 May 2024)  
IGC「Grain Market Report」(18 April 2024)（単収は精米t/ha）

図：長粒種のFOB価格の推移



## II 油糧種子 大豆

### (1) 国際的な大豆需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2024/25 年度

**生産量** 前年度比 前月比

・ブラジル、米国、アルゼンチン等で増加し、前年度を上回り、史上最高の見込み。

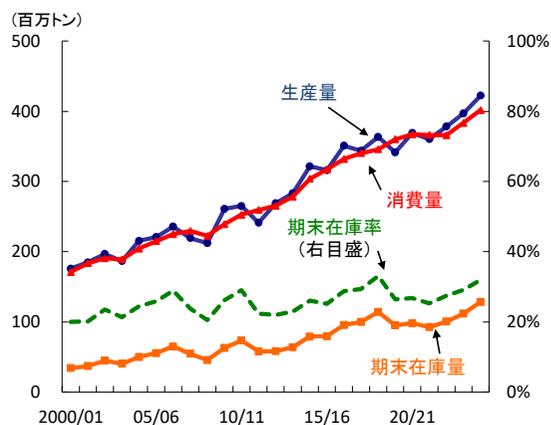
**消費量** 前年度比 前月比

・中国、アルゼンチン、米国等で増加し、前年度を上回り、史上最高の見込み。

**輸出量** 前年度比 前月比

・米国、ブラジル、アルゼンチン等で増加し、前年度を上回り、史上最高の見込み。

**期末在庫量** 前年度比 前月比



資料：USDA「PS&D」（2024.5.10）をもとに農林水産省で作成

## ◎ 世界の大豆需給

(単位：百万トン)

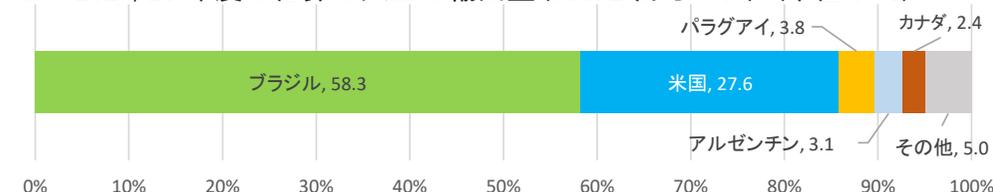
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	378.2	397.0	422.3	-	6.4
消費量	366.0	383.5	401.7	-	4.7
うち搾油用	315.3	330.0	345.9	-	4.8
輸出量	172.1	172.5	180.2	-	4.5
輸入量	167.9	170.3	176.4	-	3.6
期末在庫量	100.5	111.8	128.5	-	15.0
期末在庫率	27.5%	29.1%	32.0%	-	2.8

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(10 May 2024)

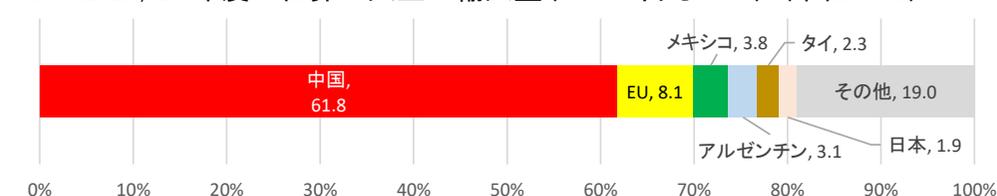
### ○ 2024/25 年度の世界の大豆の生産量(422.3 百万トン) (単位：%)



### ○ 2024/25 年度の世界の大豆の輸出量(180.2 百万トン) (単位：%)



### ○ 2024/25 年度の世界の大豆の輸入量(176.4 百万トン) (単位：%)



## (2) 国別の大豆の需給動向

### < 米国 > 2024/25 年度の生産量は、前年度より 6.9%増

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実績生産量は、収穫面積及び単収の増加を受け、前年度より 6.9%増の 121.1 百万トンの見通し。現在の価格相場は大豆の作付けに有利であるため、多くの農家がとうもろこしから大豆の作付けに切り替えるとみられている。

USDA 「Crop Progress」(2024.5.14) によれば、作付進捗率は 35%と、前年度同期(45%)を下回るものの、過去 5 年平均(34%)と同水準である。発芽率は 16%と、前年度同期(17%)を下回るものの、過去 5 年平均(10%)は上回っている。

「OIL WORLD Weekly」(2024.5.10) によれば、4 月に降雨があり、多くの地域で発芽に好影響を与えた一方、一部地域で降雨による作付作業の遅れが見られた。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、バイオ燃料等需要増による搾油の収益改善の見通しから、前年度より 5.0%増の 69.0 百万トンで史上最高の見込み。なお、背景としては、環境志向に伴い、バイオ燃料向けの搾油工場の新設による需要増や、航空燃料(SAF)向け需要増が見込まれていることがある。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、世界全体の搾油用需要が増加する見通しから、前年度より 7.3%増の 49.7 百万トンの見込み。

USDA 「Oilseeds: World Markets and Trade」(2024.5.14) によれば、本年 5 月の米国大豆価格は、5 月 6 日現在、ブラジルのリオ・グランデ・ド・スール州における洪水により世界的な減産懸念が生じたことから、前月から 22 ドル/トン上昇し、479 ドル/トン。なお、USDA によれば、2023 年 9 月～2024 年 4 月の輸出量は 4,316 万トンと、ブラジルとの激しい輸出競争を受けて前年度同時期の 4,385 万トンより 2%減。内訳は中国(2,336 万トン)、メキシコ(522 万トン)、日本(294 万トン)の順となっている。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、前年度より 30.8%増の 12.1 百万トンとなる見込み。期末在庫率は 10.2%で、過去 5 年平均(8.0%)を上回り 10%台まで回復したものの、引き続き低水準に留まる見通し。

## 大豆－米国

(単位:百万トン)

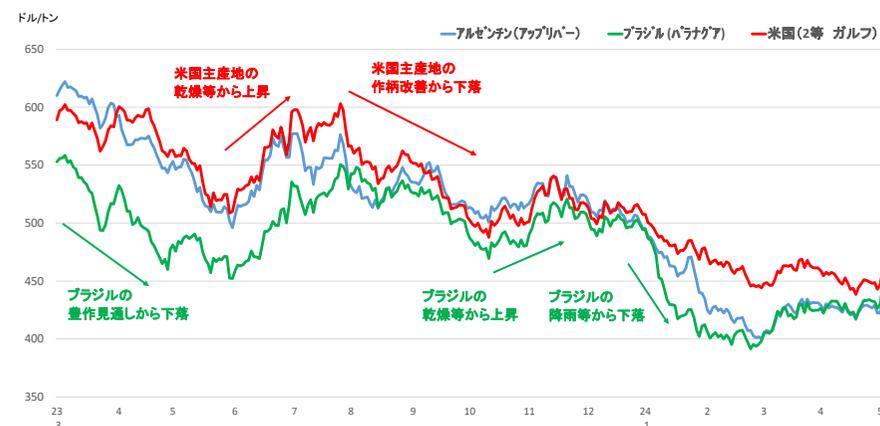
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年9月～25年8月)		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	116.2	113.3	121.1	-	6.9
消費量	63.0	65.7	69.0	-	5.0
うち搾油用	60.2	62.6	66.0	-	5.4
輸出量	54.2	46.3	49.7	-	7.3
輸入量	0.7	0.7	0.4	-	▲ 39.7
期末在庫量	7.2	9.3	12.1	-	30.8
期末在庫率	6.1%	8.3%	10.2%	-	1.9

(参考)

収穫面積(百万ha)	34.87	33.33	34.64	-	3.9
単収(t/ha)	3.33	3.40	3.50	-	2.9

資料:USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(10 May 2024)

図: 米国、ブラジル、アルゼンチンの大豆輸出価格 (FOB) の推移



資料: IGC のデータをもとに農林水産省にて作成。

年月

## ＜ ブラジル ＞ 2024/25 年度の生産量は前年度より増加

【生育・生産状況】USDAによれば、本年10月以降作付けが開始される2024/25年度の生産量は、作付面積が史上最高となることから、前年度より9.7%増の169.0百万トンと史上最高の見通し。

ブラジル食料供給公社（CONAB）の月例報告（2024.5.14）によれば、2023/24年度の生産量は、とうもろこし等から収益性が高い大豆に作付けがシフトすることで収穫面積が増加するものの、生育初期の高温乾燥による単収減から前年度より4.5%減の147.7百万トンの見通し。

CONABによれば、5月初旬の全国の収穫進捗率は94%と、収穫終盤を迎えている。

5月上旬、南部のリオ・グランデ・ド・スール州において多雨により洪水が発生した。リオ・グランデ・ド・スール州は国全体の大豆生産量の15%程度を占めている。USDAによれば、リオ・グランデ・ド・スール州の収穫進捗率は5月9日現在で78%と終盤を迎えているものの、保管施設等での被害も確認されており、損失が拡大する可能性もある。

【需要状況】USDAによれば、2024/25年度の消費量は、引き続き堅調な搾油用需要から前年度より0.4%増の58.1百万トンとほぼ横ばいの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25年度の輸出量は、増産による供給増を受けて価格競争力も高まる見込みから、前年度より2.9%増の105.0百万トンと史上最高の見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2024年1～4月の輸出量は36.8百万トンで、前年度同期（33.4百万トン）に比べ10.2%増となっており、中国向け輸出が昨年に引き続き堅調に推移していることが要因。輸出先は、中国（25.8百万トン）、スペイン（1.3百万トン）、タイ（1.2百万トン）の順。大豆は輸出最盛期に入っている。

2023年6月、北部のマラニョン州イタキ港と南部のサンパウロ州サントス港を結ぶ南北鉄道が開通した。さらに、マット・グロッソ州から南部サントス港まで輸送する鉄道の拡張工事も行われており、これらのアクセス改善が輸出のボトルネックを回避する一助になることが期待されている。

## 大豆－ブラジル

(単位：百万トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	162.0	154.0	169.0 (159.8)	-	9.7
消費量	57.2	57.9	58.1 (57.8)	-	0.4
うち搾油用	53.4	54.0	54.0 (54.8)	-	-
輸出量	95.5	102.0	105.0 (101.7)	-	2.9
輸入量	0.2	0.5	0.2 (0.5)	-	▲ 66.7
期末在庫量	36.8	31.4	37.5 (2.0)	-	19.3
期末在庫率	24.1%	19.7%	23.0% (1.3%)	-	3.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	44.60	45.90	47.30 (41.49)	-	3.1
単収(t/ha)	3.63	3.36	3.57 (3.85)	-	6.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(10 May 2024)  
IGC「Grain Market Report」(18 April 2024)

### ブラジルのクロープカレンダー(中部から南部)

2023/24年度の大豆の作付けは、2023年9月以降、順次開始。

2024年2月以降、大豆の収穫が行われ、その後、一部の圃場で冬とうもろこしを栽培。

2023/24年度	2023年				2024年								
	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
夏とうもろこし (リオ・グランデ・ド・スール 州等)	作付 4.0(百万ha)				収穫 23.5(百万t) → 収穫夏冬作計 111.6百万t								
冬とうもろこし (マット・グロッソ州、 パラナ州等)	作付面積夏冬作計 20.6百万ha ←				作付 16.6(百万ha) → 収穫88.1(百万t) 大豆収穫後の一部圃場で冬とうもろこし作付け								
大豆 (マット・グロッソ州、 パラナ州等)	作付 45.7(百万ha)				収穫 147.7(百万t)								

資料：CONAB穀物レポート（2024.5.14）

## < アルゼンチン > 2024/25 年度の生産量は、前年度より増加

【生育・生産状況】USDAによれば、本年11月以降作付けが開始される2024/25年度の生産量は、大豆の収益性が高まることで農家がとうもろこしから大豆へ作付をシフトさせる見通しから、前年度から2.0%増の51.0百万トンの見込み。

アルゼンチン政府によれば、5月11日現在、大豆の収穫進捗率は48%と、前年度同期(59%)より遅れている。4月上旬の北部での降雨過多の影響で収穫に遅れが出ていることも影響しているとみられる。

ブエノスアイレス取引所週報(2024.5.16)によれば、北東部において、降雨過多による収穫遅延が発生している。

【需要状況】USDAによれば、2024/25年度の消費量は、増産に伴い搾油量が増加することから、前年度比11.3%増の47.6百万トンの見込み。アルゼンチンは、丸大豆の搾油後に発生する大豆加工品の輸出が多く、世界有数の大豆油及び大豆粕の輸出国である。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25年度の輸入量は、国内生産量の増加に伴い輸入需要が減少することから、前年度より15.4%減の5.5百万トンの見込み。

2024/25年度の輸出量は、中国向け輸出が増加する見通しから、前年度より19.6%増の5.5百万トンの見込み。

なお、2024年1～3月の輸出量は、前年度の干ばつによる減産からの回復を受けて6.1万トンで前年度(4.1万トン)より49%増。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、輸出税を設定している。2021年1月以降、輸出税を大豆最大33%、大豆油及び大豆粕31%と設定。2022年3月に、大豆油及び大豆粕の輸出税について2022年末まで2%引き上げたが、2023年1月からは31%に戻している。

2023年12月10日、新大統領に右派のミレイ氏が就任した。同12日、経済相は通貨ペソの公式レートを現行の1ドル=350ペソから50%以上切り下げ、1ドル=800ペソにした。また、大豆の輸出税は引き続き最大33%に設定すると発表した。

## 大豆—アルゼンチン

(単位:百万トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	25.0	50.0	51.0 (51.0)	-	2.0
消費量	36.6	42.8	47.6 (49.5)	-	11.3
うち搾油用	30.3	35.5	40.0 (42.5)	-	12.7
輸 出 量	4.2	4.6	5.5 (4.9)	-	19.6
輸 入 量	9.1	6.5	5.5 (5.4)	-	▲ 15.4
期末在庫率	17.0	26.2	29.6 (11.6)	-	13.0
期末在庫率	41.7%	55.2%	55.6% (21.3%)	-	0.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	14.40	16.50	16.90 (15.87)	-	2.4
単収(t/ha)	1.74	3.03	3.02 (3.21)	-	▲ 0.3

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(10 May 2024)  
IGC 「Grain Market Report」(18 April 2024)

### 写真: 北部サンタフェ州の大豆の圃場風景 (2024年4月28日撮影)



本圃場の大豆は、11月上旬に作付され、収穫作業が行われている。本圃場の大豆子実は小粒であるが、重量は十分にあり、単収は5.2トン/ヘクタールが記録された。

## < 中国 > 2024/25 年度の生産量は、前年度より減少する見通し

【生産・生育状況】USDA によれば、2024/25 年度の実績は、作付面積が増加（対前年度比 0.3%増）するものの、単収が平均並みに戻り減少（対前年度比 1.0%減）すると見込まれることから、前年度より 0.7%減の 20.7 百万トンとなるも、史上 2 番目の見込み。

なお、例年、5 月、主産地の黒竜江省等では作付期を迎えている。USDA によれば、5 月上旬、東北部において降雨があり、例年より温暖な気候を受けて作付けが進展するとみられる。

2 月 3 日に発表された中国共産党・国務院（内閣に相当）の中央一号文件には、引き続き大豆の作付け確保や単収の向上等の取組等について記載された。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、国内の畜産物需要増から大豆粕需要が増加することから、前年度より 4.2%増の 126.8 百万トンと史上最高の見込み。ただし、業界情報によれば、直近では中国の経済成長が鈍化し、豚肉の価格が低迷する中、中国政府は 3 月から国内の養豚飼育数の生産目標を減らす供給過剰対策を開始しており、飼料用需要減少につながるの見方もある。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸入量は、大豆粕需要増を受けて、前年度より 3.8%増の 109.0 百万トンと史上最高の見込み。

中国海関統計によれば、2024 年 1～3 月の輸入量は、前年度同期より 10.8%減の 1,857.7 万トン。内訳は、ブラジル（998.6 万トン）、米国（713.7 万トン）、カナダ（90.3 万トン）の順となっている。ブラジルと米国を合わせたシェアが 9 割以上を占めている。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2024 年 3 月号」によると、3 月の国内価格は、肉、卵及び牛乳の供給増に伴い大豆製品に対する消費者の需要が低下したことにより、5,360 元/トンと前月（5,620 元/トン）から下落した。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、輸入増を受けて、前年度より 7.7%増の 39.2 百万トンと史上最高の見込み。2024/25 年度の期末在庫率は、前年度より 1.0 ポイント増の 30.9%となる見込み。

## 大豆－中国

（単位：百万トン）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	20.3	20.8	20.7 (21.5)	-	▲ 0.7
消費量	117.5	121.7	126.8 (124.4)	-	4.2
うち搾油用	96.0	99.0	103.0 (102.5)	-	4.0
輸 出 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	-
輸 入 量	104.5	105.0	109.0 (103.0)	-	3.8
期末在庫量	32.3	36.4	39.2 (40.2)	-	7.7
期末在庫率	27.5%	29.9%	30.9% (32.3%)	-	1.0
(参考)					
収獲面積(百万ha)	10.24	10.47	10.50 (8.40)	-	0.3
単収(t/ha)	1.98	1.99	1.97 (1.95)	-	▲ 1.0

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」 (10 May 2024)  
IGC 「Grain Market Report」 (18 April 2024)

## 表 中国の大豆輸入量と輸入元国

（輸入量：万トン、シェア：%）

2024年 1～3 月			2023年 1月～2023年12月		
国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア
ブラジル	998.6	53.8	ブラジル	6,993.0	70.7
米国	713.7	38.4	米国	2,374.3	24.0
カナダ	90.3	4.9	アルゼンチン	199.2	2.0
ロシア	22.4	1.2	カナダ	146.6	1.5
アルゼンチン	21.2	1.1	ロシア	129.3	1.3
ウルグアイ	3.2	0.2	南アフリカ	14.7	0.1
その他	8.3	0.4	その他	38.6	0.4
計	1,857.7	100	計	9,895.7	100

資料：中国海関統計をもとに農林水産省で作成

## < カナダ > 2024/25 年度の生産量は 6.9 百万トンの見込み (AAFC)

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省 (AAFC) 「Outlook for Principal Field Crops」(2024.5.21) によれば、2024/25 年度の実産量は、作付面積が前年より減少することを受け、前年度から 1% 減の 6.9 百万トンの見込み。大豆価格が低下しているものの、大豆粕需要と輸出は堅調であり、生産量は微減に留まるとみられる。土壌水分量は現時点で十分とみられる。作付面積の減少は、前年度に作付面積を増加させたマニトバ州の農家が反動で作付面積を減らしたことが要因とみられる。

なお、カナダの大豆生産は、小麦やなたねと異なり、東部のオンタリオ州が主産地で、生産量の半分以上のシェアがある。オンタリオ州に隣接するマニトバ州及びケベック州でも生産されている。

オンタリオ州では、大豆の作付期を迎えている。AAFC によれば、カナダ東部では、降雨と冷涼な気候を受け、作付け作業に遅れが生じている。

【需要状況】AAFC によれば、2024/25 年度の消費量は、飼料用等の需要の減少により前年度から 1.5% 減の 2.4 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】AAFC によれば、2024/25 年度の輸出量は、前年度より 1.0% 増の 5.0 百万トンの見込み。主要な輸入相手国である中国において、搾油用需要増に伴い、輸入量が増加することが要因の一つとみられる。

カナダ穀物委員会 (Canadian Grain Commission) によれば、2023/24 年度 (2023 年 8 月～2024 年 7 月) の 2023 年 8 月～2024 年 3 月の輸出量は 322.5 万トンで、前年度同期 (305.6 万トン) を上回っている。国別では、中国 (143.9 万トン) が 40% 以上のシェアを占め、次いでアルジェリア (54.9 万トン)、イラン (54.6 万トン)、イタリア (15.0 万トン) の順となっている。

AAFC によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、減産により前年度から 10.8% 減の 0.4 百万トンの見込み。

## 大豆－カナダ

(単位：百万トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年8月～25年7月)		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
			予測値、()はAAFC			
生産量	6.5	7.0	6.7 (6.9)		-	▲ 4.0
消費量	2.7	2.8	2.7 (2.4)		-	▲ 3.6
うち搾油用	1.8	1.8	1.7 (1.9)		-	▲ 5.7
輸出量	4.2	4.6	4.3 (5.0)		-	▲ 5.5
輸入量	0.5	0.4	0.4 (0.5)		-	14.3
期末在庫量	0.4	0.4	0.6 (0.4)		-	37.2
期末在庫率	5.3%	5.5%	8.0% (5.0%)		-	2.4

(参考)

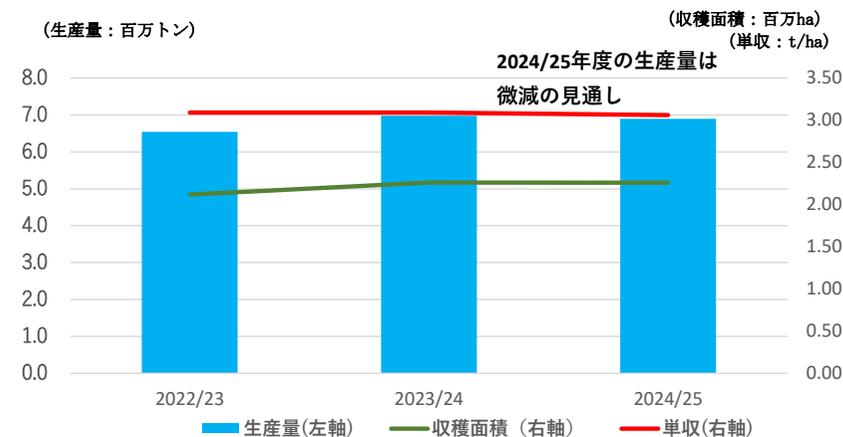
収穫面積(百万ha) 2.12 2.26 2.20 (2.26)  
単収(t/ha) 3.09 3.09 3.05 (3.06)

資料：USDA 「PS&D」

「World Agricultural Production」(10 May 2024)

AAFC 「Outlook for Principal Field Crops」(21 May 2024)

図 カナダの直近 3 か年の生産量等の推移



資料：AAFC 「Outlook for Principal Field Crops」(2024.5.21) をもとに農林水産省にて作成。

(参考1)本レポートに使用されている各国の穀物年度について (2024/25年度)

	小麦	とうもろこし	コメ	大豆
米国	24年6月～25年5月	24年9月～25年8月	24年8月～25年7月	24年9月～25年8月
カナダ	24年8月～25年7月			24年8月～25年7月
豪州	24年10月～25年9月		25年3月～25年2月	
EU	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月		
中国	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月
ロシア	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月		24年9月～25年8月
ウクライナ	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月		
ブラジル		25年3月～26年2月	25年4月～26年3月	24年10月～25年9月
アルゼンチン	24年12月～25年11月	25年3月～26年2月		24年10月～25年9月
タイ			25年1月～12月	
インド	24年4月～25年3月		24年10月～25年9月	
ベトナム			25年1月～12月	

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。  
 例えば、2024/25年度は、米国の小麦では2024年6月～2025年5月、ブラジルのとうもろこしでは2025年3月～2026年2月です。  
 なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。  
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads> (「Reference Data」タブを参照)

(参考2)単位換算表

1 容積→重量

1 Bushel (ブッシェル) (穀物により異なる)	0.027216	メトリックトン	小麦、大豆	米国等
	0.021772	メトリックトン	大麦	
	0.025401	メトリックトン	とうもろこし	
	0.014515	メトリックトン	オーツ	
1 CWT(百ポンド)	0.045359	メトリックトン	コメ	米国等

2 面積

1Acre(エーカー)	0.40469	ヘクタール	米国等
1rai(ライ)	0.16	ヘクタール	タイ
1 亩(ムー)	0.0667	ヘクタール	中国

3 その他

1ガロン	4.536	リットル	英国
1ガロン	3.785	リットル	米国

1LAKH(ラーク)	10万	位取り	インド
------------	-----	-----	-----

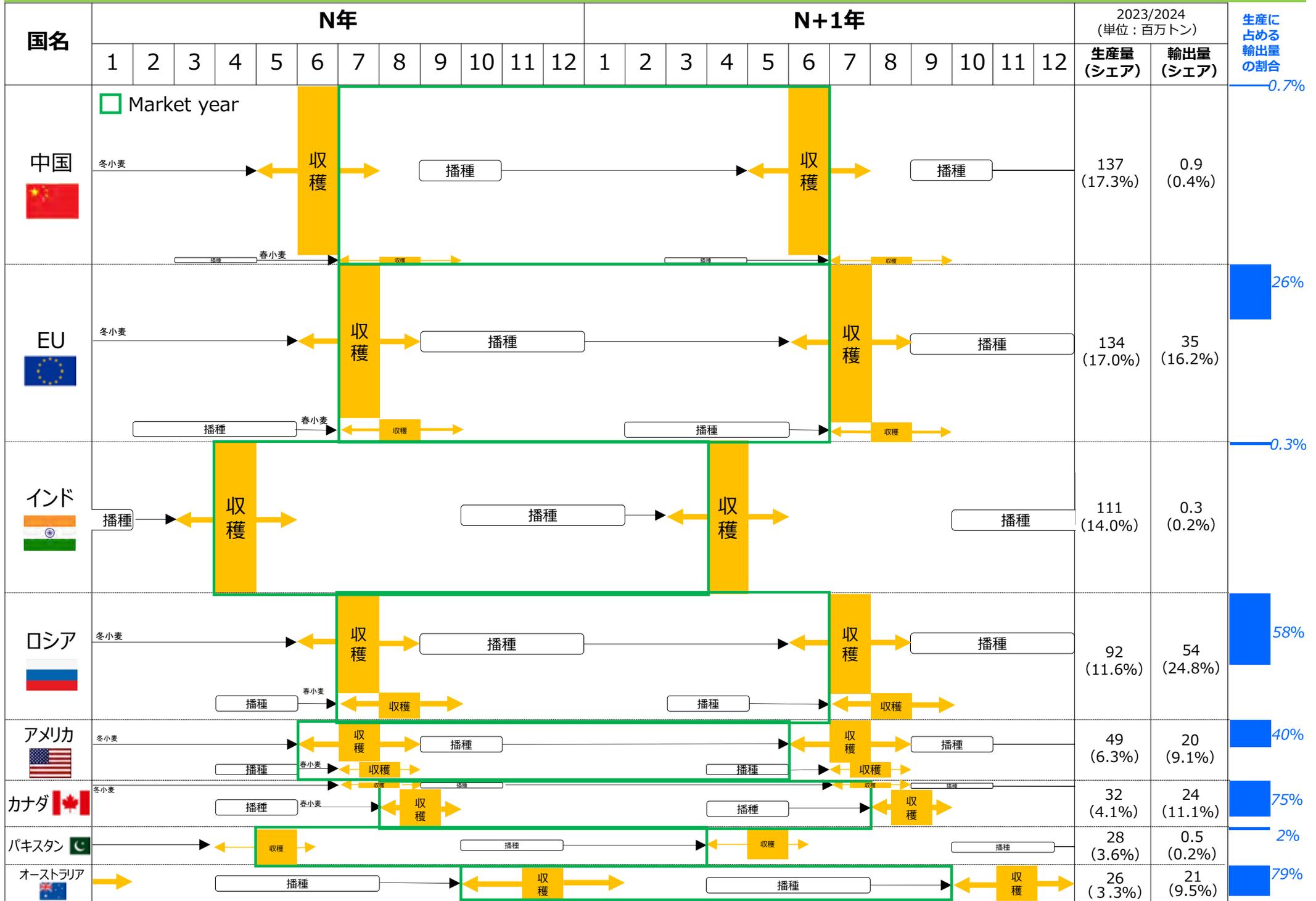
1斤	500g	重量	中国
----	------	----	----

華氏→摂氏 : $^{\circ}\text{C} = (^{\circ}\text{F} - 32) \div 1.8$			
---------------------------------------------------------------	--	--	--

(参考3)各国のクロープカレンダー一覧(主要品目毎)

# 主要生産国のクロープカレンダー(小麦)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



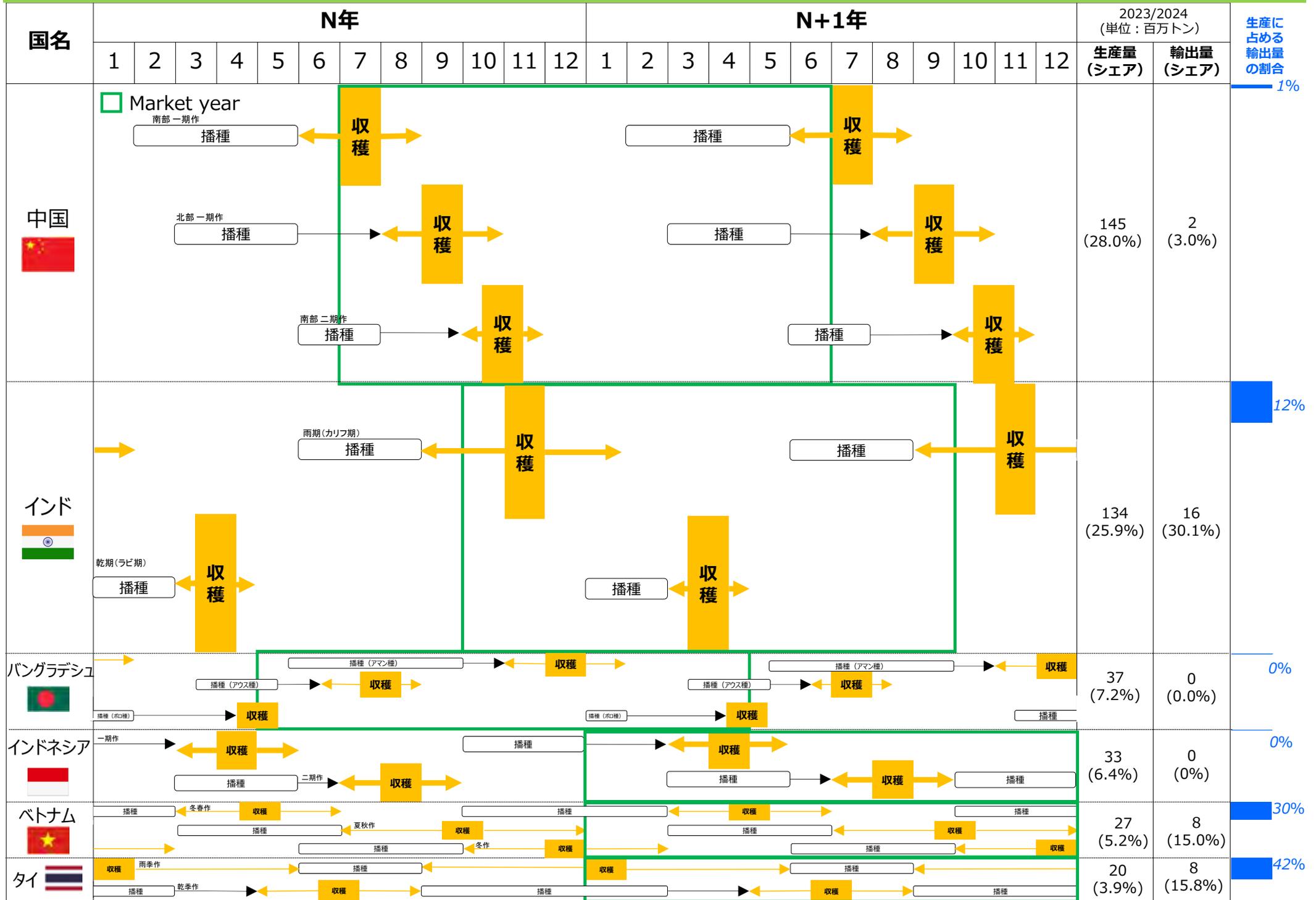
資料 : AMIS 「Supply and demand balances manual」, USDA 「PS&D」 (2024.5)

注 : シェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している。  
冬小麦と春小麦の収穫量の割合は便宜的にデュラム小麦は全て春小麦としている。

その他 :

# 主要生産国のクロープカレンダー(米)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



資料: AMIS 「Supply and demand balances manual」, USDA 「PS&D」 (2024.5) 注: シェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している。 その他: 122 (23.5%) 19 (36.1%)

# 主要生産国のクロープカレンダー(とうもろこし)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。

国名	N年												N+1年												2023/2024 (単位:百万トン)		生産に 占める 輸出量 の割合
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	生産量 (シェア)	輸出量 (シェア)	
アメリカ 	<div style="border: 1px solid green; padding: 5px;"> <span style="border: 1px solid green; display: inline-block; width: 10px; height: 10px; margin-right: 5px;"></span> Market year                 </div> 播種 → 収穫												390 (31.7%)	55 (27.7%)	14%												
中国 	播種 → 春作 → 収穫 播種 → 夏作 → 収穫												289 (23.5%)	0 (0.0%)	0%												
ブラジル 	夏とうもろこし → 収穫 播種 → 冬とうもろこし → 収穫												122 (9.9%)	50 (25.3%)	41%												
EU 	播種 → 収穫												61 (5.0%)	4 (2.1%)	7%												
アルゼンチン 	播種 → 収穫												53 (4.3%)	38 (19.3%)	72%												
インド 	乾期(ラビ期) → 播種 → 収穫 雨期(カリフ期) → 播種 → 収穫												38 (3.1%)	0.8 (0.4%)	2%												

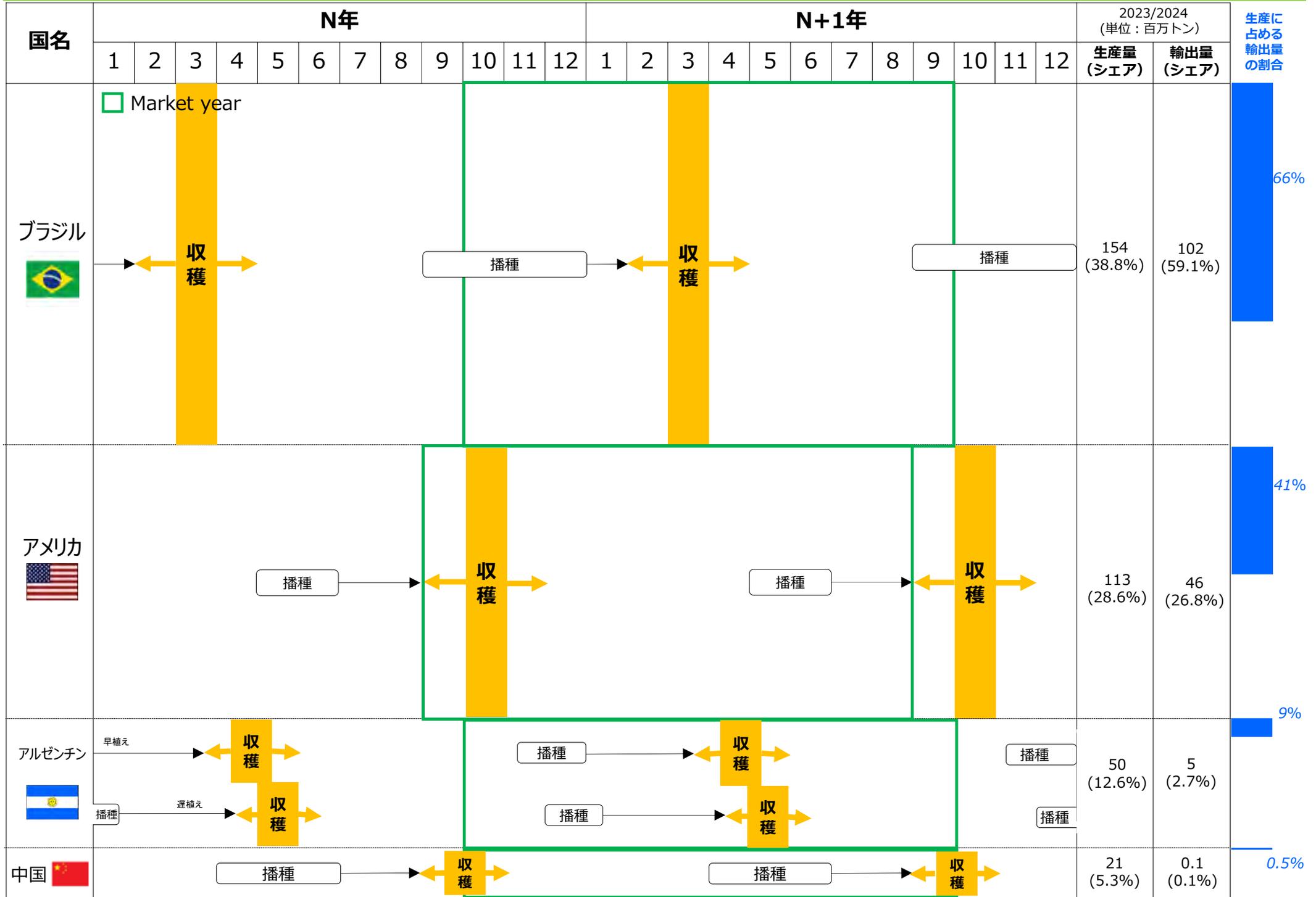
資料 : AMIS 「Supply and demand balances manual」, USDA 「PS&D」 (2024.5)

注 : シェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している。

その他 : 276 (22.5%) 50 (25.2%)

# 主要生産国のクロープカレンダー(大豆)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



資料 : AMIS 「Supply and demand balances manual」, USDA 「PS&D」 (2024.5) 注 : シェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している。 その他 :

59  
(14.8%)      20  
(11.3%)

# 主要生産国のクロープカレンダー(菜種)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。

国名	N年												N+1年												2023/2024 (単位：百万トン)		生産に 占める 輸出品 の割合	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	生産量 (シェア)	輸出品 (シェア)		
EU 	Market year						収穫	播種						収穫	播種						20 (22.6%)	0.6 (3.3%)	3%					
カナダ 							播種	収穫						播種	収穫						19 (21.3%)	7 (39.3%)	35%					
中国 	収穫												播種	収穫						播種						15 (17.4%)	0 (0%)	0%
インド 	収穫												播種	収穫						播種						13 (14.1%)	0 (0%)	0%
オーストラリア 							播種	収穫						播種	収穫						6 (6.4%)	5 (27.6%)	81%					
ウクライナ 							収穫	播種						収穫	播種						4 (5.0%)	3 (20.5%)	78%					
ロシア 							播種	収穫						播種	収穫						4 (4.8%)	0.8 (4.8%)	19%					

資料：AMIS「Supply and demand balances manual」, USDA「PS&D」(2024.5)

注：シェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している

その他：7 (8.4%) 0.7 (4.5%)